

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本RNA学会	11
日本ウイルス学会	9
日本農芸化学会	5
日本薬学会	5
日本獣医学会	4
日本動物学会	4
日本繁殖生物学会	4
日本化学会	3
日本再生医療学会	3
日本細菌学会	3
日本植物学会	3
日本進化学会	3
日本人類遺伝学会	3
日本病理学会	3
農芸化学会	3
酵母遺伝学フォーラム	2
日本エピジェネティクス研究会	2
日本がん分子標的治療学会	2
日本バイオインフォマティクス学会	2
日本解剖学会	2
日本時間生物学会	2
日本蛋白質科学会	2
日本糖質学会	2
日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム	2
日本放射線影響学会	2
ASCB	1
JRE 生殖工学	1
SfN	1
The American Society for Cell Biology (USA) Society of Developmental Biology (USA) The Society for Research on Biological Rhythms	1
アメリカ細胞生物学会	1
エピジェネティクス研究会	1
エピジェネティクス研究会	1
がん転移学会	1
なし	1
ミトコンドリア学会	1
血管生物医学会	1
細菌学会	1
実験動物学会	1
小児科学会 日本内分泌学会 日本小児内分泌学会 糖尿病学会 骨代謝学会 肥満学会	1
植物生理学、植物細胞分子生物学会、作物学会、大気環境学会	1
神経化学会、北米神経科学会	1
数理生物学会植物学会	1
生物工学会、再生医療学会	1
生薬学会、日本農芸化学会	1
蛋白質科学会	1
蛋白質科学会 生物物理学会 日本薬学会	1
糖尿病学会、内分泌学会、肥満学会	1
動物学会、蚕糸学会	1
日本RNA学会、日本化学会	1
日本RNA学会、核酸医薬学会、日本薬学会	1
日本RNA学会、日本エピジェネティクス研究会	1
日本RNA学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本RNA学会、日本核磁気共鳴学会他	1
日本RNA学会、日本進化学会	1
日本RNA学会、日本進化学会、日本動物学会、生命の起原及び進化学会、	1
日本アレルギー学会 日本血液学会	1
日本イメージング学会	1
日本ウイルス学会、日本薬学会	1
日本ウイルス学会、細菌学会東北支部会	1
日本ウイルス学会、日本再生医療学会、日本エイズ学会	1
日本ウイルス学会、日本獣医学会	1
日本エピジェネティクス研究会、日本再生医療学会	1
日本ゲノム編集学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本ゲノム編集学会、染色体学会	1
日本ストレス学会	1
日本バイオインフォマティクス学会、生き物文化誌学会	1
日本ホスファターゼ研究会	1
日本ミトコンドリア学会	1
日本ミトコンドリア学会 日本基礎老化学会	1
日本遺伝子細胞治療学会・日本再生医療学会・日本解剖学会・ISSCR	1
日本医学検査学会	1
日本育種学会	1
日本栄養・食糧学会	1
日本科学教育学会、日本生物教育学会	1
日本解剖学会、日本神経内分泌学会、日本組織細胞化学会	1
日本環境変異原学会、米国環境変異原ゲノミクス学会	1
日本眼科学会、日本緑内障学会	1
日本基礎老化学会日本薬学会	1
日本寄生虫学会	1
日本機械学会、バイオマテリアル学会	1
日本結晶学会	1
日本結晶学会、日本蛋白質科学会、日本化学会、日本薬学会	1
日本血液学会	1
日本血液学会、国際幹細胞学会	1
日本血液学会、日本ウイルス学会、日本小児学会、日本小児感染症学会	1
日本血管生物医学学会	1
日本血管生物医学学会、アメリカ細胞生物学会	1
日本血栓止血学会、日本検査血液学会	1
日本研究皮膚科学会 日本毒性学会 日本蚕糸学会	1
日本顕微鏡学会	1
日本原生生物学会、日本藻類学会	1
日本骨代謝学会	1
日本再生医療学会、日本遺伝子細胞治療学会	1
日本細胞性粘菌学会	1
日本細胞性粘菌学会、日本生態学会、日本進化学会	1
日本産科婦人科学会、日本基礎老化学会	1
日本蚕糸学会 Society for Invertebrate Pathology	1
日本脂質生化学会	1
日本質量分析学会	1
日本実験動物学会	1
日本実験動物学会、日本ウイルス学会	1
日本実験動物学会、日本実験動物技術者協会	1
日本獣医学会 日本繁殖生物学会	1
日本獣医学会、日本進化学会	1
日本循環器学会	1
日本循環器学会英国発生生物学会	1
日本小児科学会、日本内分泌学会、日本小児内分泌学会	1
日本植物学会、日本植物細胞分子生物学会	1
日本植物細胞分子生物学会	1
日本植物細胞分子生物学会、日本育種学会、日本生物工学会	1
日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学会、ユークレナ研究会	1
日本植物生理学会、日本植物細胞分子生物学会、日本応用物理学会	1
日本神経学会、日本cell death学会、日本神経病理学会	1
日本進化学会、日本数理生物学会	1
日本水産学会、日本農芸化学会、日本藻類学会	1
日本生物教育学会	1
日本生物工学会、極限環境生物学会、	1
日本生物工学会日本バイオマテリアル学会	1
日本生物工学会日本酵母遺伝学フォーラム	1
日本生物高分子学会	1
日本組織培養学会、日本がん分子標的治療学会、日本再生医療学会、日本基礎老化学会、	1
日本体力医学会、日本運動生理学会	1
日本蛋白質科学会	1
日本蛋白質科学会 日本結晶学会	1
日本蛋白質科学会、日本ゲノム微生物学会、極限環境生物学会	1
日本電気泳動学会	1
日本土壌肥料学会、日本農芸化学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本動物学会 日本放射線影響学会	1
日本動物学会、日本RNA学会	1
日本動物学会、日本解剖学会	1
日本動物学会、日本動物細胞工学会	1
日本動物学会日本進化学会	1
日本内科学会 日本透析医学会 日本再生医療学会 日本血液学会日本高次脳機能障害学会	1
日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会	1
日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会	1
日本内分泌学会	1
日本乳酸菌学会 米国癌学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会など	1
日本農芸化学会、日本栄養食糧学会、日本ビタミン学会	1
日本農芸化学会、日本結晶学会	1
日本農芸化学会、日本再生医療学会、日本ゲノム編集学会	1
日本農芸化学会、日本進化学会、日本ゲノム微生物学会	1
日本農芸化学会、日本生体防御学会、日本エピジェネティクス研究会	1
日本農芸化学会Pacon 国際学会 その他多数	1
日本農芸化学会酵母遺伝学フォーラム	1
日本農芸化学会日本ビタミン学会日本栄養・食糧学会	1
日本繁殖生物学会、日本獣医学会、日本毒性学会、日本内分泌学会	1
日本繁殖生物学会American Society for Cell Biology	1
日本比較内分泌学会、日本動物学会、日本血管生物医学学会	1
日本肥満学会	1
日本病理学会、日本サイトメリー学会、日本ヒト細胞学会、日本臨床細胞学会	1
日本病理学会、日本胃癌学会、日本消化器癌発生学会	1
日本物理学会、Biophysical Society	1
日本放射線影響学会日本基礎老化学会	1
日本薬学会、アメリカ質量分析学会、アメリカ生化学分子生物学会	1
日本薬学会日本薬理学会日本血管生物医学学会日本肥満学会	1
日本薬理学会	1
日本薬理学会 SfN	1
日本薬理学会、日本生理学会	1
日本薬理学会、日本精神神経薬理学会、日本薬学会	1
日本薬理学会、日本糖尿病学会、日本病態生理学会、ヨーロッパ糖尿病学会 (EASD)	1
日本臨床検査医学会、日本臨床微生物学会、等	1
日本臨床細胞学会	1
肥満学会	1
分子標的治療学会	1
米国人類遺伝学会	1
北米神経科学会	1
北米神経科学会、日本薬理学会、日本皮膚科学会	1

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	著者索引は無くてもいいのでは。PC等での検索が可能なのだから。
※	スケジュールだけ載っている小さいメモ帳サイズのものは使いませんが、カードホルダーに入れている人がいて、便利な大きさだとは思いました。
※	冊子印刷版の簡易版(薄いもの)はあると便利。
※	会場マップだけを簡略化した小冊子の導入はとても良かったと思います。
※	プログラムよりもノートが欲しい。
※	冊子が小さくコンパクトになるのは嬉しいが、字が小さいと読めないのが、意味がない。ということは無くても良いのかも無いが、参加した証、としては欲しい方もいるのでは。冊子は作成して頂き、現状よりも字が大きくなることを望みます。
※	「Timetable & Map」は、ネーム・カード・ホルダーにも入れることができ、良かった。
※	アプリで十分だったので、輸送費の削減のために冊子はいらないと思います。
※	アプリをより使いやすくして冊子をなくすようにすると環境にやさしい学会ができるのではないかと。もしくはPDF版がDLできるようにする。紙を使わない、または減らす方向が良いと思う。
※	A5が悪いわけではないが、A4にして厚みが薄い方が、会場で片手で開いて読みやすい。
※	直前にチェックするのに便利だった。当日はもっぱらiPadでチェックした。
※	とても良かったです。プログラムのみのミニ冊子もあって助かりました。
※	もし、A4判にして、薄くなるのなら、その方が持ちやすくて良い。字は小さくても良いので、薄いものが良い。
※	従来の要旨集が良い
※	展示会場の地図(企業等の展示ブースの位置がわかるもの)を付けて欲しい
※	ペーパーレス化は賛成だけど出張報告があるので何かしらのプリントページは必要かと。
※	薄くて小さいダイジェスト版素晴らしいです。
※	演題やポスター発表全部載せるのは大変だと思いますが、冊子でもある程度要旨が書かれているのもっと良いと思います。
※	今回初めてですが、演題が多いため、このサイズでは要旨が読みづらかったです。年齢による目のよしあしがあることで、偏った意見かとは思いますが、アプリをPCにもダウンロードできれば、それで十分な気がします。
※	冊子版は重いので使用しませんでした。
※	持ちやすかったが字が見にくかった。
※	冊子にもう少しメモを出来るスペースを作っただけとなお良い。
※	素晴らしいバランスでした
※	白紙のページを増やして欲しい(メモ用)
※	日にちごとに冊子を分けると軽量化が図られるかもしれない
※	紙は同封されていたスケジュールと会場のまとめのパンフレットだけで十分です。
※	開場で配られた、ポケットサイズに物がネームカードに入る大きさにしてもらえると持ち運びに便利
※	アプリを使用したので、冊子は利用しなかった。
※	メモする箇所だけ増やしてほしい
※	A5のサイズの方が持ちやすくて良いのですが、文字がもう少し大きくと見やすくて助かります。
※	個人的に、聞いたことをプログラム冊子にメモするので、メモのページがもっとあったらいいと思いました。
※	A4判からA5判に変更した理由は多々あると思いますが、もし各参加者への送料などが問題であれば、会場での受け取りでも良いのではと思います。
※	索引部分の文字は薄くて暗い会場だとよく見えなかった
※	持ち歩きにはA5が良いですが、A4の方が本棚にしまいやすいです。
※	冊子印刷版は事前登録申し込み時点で要・不要の選択方式にした方が良いでしょう。また冊子がA5版なのは、ipad miniなどのタブレットに比べると一回り大きく一緒に持ち歩くのが若干不便なので、演題名の文字数削減や発表著者の「et al.」採用等で簡略化の上で、更に小さいB6版にした方が良いでしょう。
※	軽いのは楽だが、視力低下が激しい年齢になってきました。結局活用できていません。
※	オンライン版(PDFファイル)で会員に配布するだけで充分であると思います。
※	特に携帯する必要はなかったので参加者としては概要が確認できればどうでもよかった。アプリを充実させて欲しい。
※	B5版にして多少なりとも薄くなった方がいいたかもしれません
※	薄い会場案内が付いていたのが非常に良かった。
※	重くないので持ち運びに便利だった
※	過去の要旨集の重さを懐かしみながら、スマートフォンで要旨を確認して便利さを身に染みて感じました。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ITシステムは使いませんでした。年寄りですし、プログラム集冊子が十分に使いやすかったので、特に不便は感じず。
※	参加していないため使用しておらず、無回答でお願いします
※	会場のネット接続が不安定で、抄録を開けない会場があった。接続アンテナの本数が少ないのでは？
※	講演要旨のpdfは一括ダウンロードもできるとよいと思う。
※	本の方が使いやすい。その代わり1日ごとに切り離せるようにして欲しい。
※	アプリが不安定。ミススケジュールに登録したポスターの、マップ上の位置も示すと会場を何度も往復しなくて済むのに。
※	「いいね」やミススケジュールに入れた人数の表示などは不要
※	「会場ナビ機能」って何ですか？そのような機能があるのだったら使ってみたかったです。
※	全文横断検索されていたのかいなかったのか解らないが、key wordから漏れるものがあったような気がする。abstractにe-mail掲載OKにして(勿論選択制)、連絡出来るようにしては？(登録時にそんなオプション無かったでしょうか・・・)
※	通信速度が遅かった
※	いいね、がいかされていない。
※	はじめから使う気になれなかった。使いづらそうであった。
※	各演題要旨やスケジュール等をevernoteやdropbox等に連携できるようにしてほしい。要は、欲しい情報に素早くアクセスできるアプリに徹し、その情報は確認が使いやすい形で利用できるようにすればよい。使うスタイルは万人が満足するものをアプリで実現することにこだわらないほうが良い。ポスター発表者は、SNS機能を利用して所定の時間以外にもポスター前に対応する時間を発信できるようにして、実際にそうした対応をしてもらえると助かります。
※	一部、人の名前を入れても検索に引っかからなかったように思えた。使い方の問題かもしれませんが
※	「会場ナビ機能」の存在を知らなかった。「参加者・発表者検索」で検索した発表者の発表にもリンクが欲しかった。
※	「SNS機能(参加者⇄発表者)」はどれくらい使われているのですか？
※	会場を探すと元のページ(プログラム内容)に戻れないのが非常に不便だった。また、発表内容から飛んで会場を矢印で示して欲しい。結局自分で探さなくてはならず、時間がかかる。演題とメモをまとめてメールなり外に保存する方法があるとありがたいと思った。今回は使わなかったので実装済みだったらすみません。これがあればスマホだけを持ち歩けば良いのでありがたい。
※	検索ではなく、プログラムと要旨の全部をPDFでダウンロードできる様にしてほしい。特定の分野ではなく要旨を全部ざっと読みたいため、これがあれば冊子体はなくてもよい。
※	「気になった演題・ポスターにマークを付ける」(事前、事後含めて)というしおりの機能がなかったのも、そのかわりにミススケジュール機能を使ったところ、ミススケジュール本来の機能が使いにくくなった。なお、「気になった」=気に入らない(科学的な意味)もあるので、「いいね」では決してない。システム設計者はそのあたりを理解しているか？
※	「いいね！」機能により、発表者のモチベーションが上がるとの見解ですが、「いいね！」がゼロの場合には、逆にモチベーションが下がるのではないかと思います。今後はこの機能をなくすか、あるいは、「いいね！」を公表するのではなく、つけた本人だけが見れるように改良したほうが良いと思います。
※	あまり必要性を感じなかったため、未使用のまま参加しました。
※	(この項に書くのが適切かどうかはわかりませんが)発表会場内でWiFiが使えたら、より良かったです。
※	不要。経費を節約して下さい。
※	会員に関しては、参加登録をしていなくても見られるようにしてほしい。(事前参加登録を忘れたため、当日までプランニングができなかったため)
※	要旨の検索にあたり、本来あるべき要旨が検索できない、発表者が検索しても出てこない等、システム的な問題があったように思う。
※	会場によってはwifiのアクセス状態が悪いので、要旨の検索閲覧などはスタンドアロンで使えた方がよい。勿論、オンタイムで情報のやり取りができるのは便利であった。他方、アプリの方では、アイコンのシンボルが必ずしもself-explanatoryではないに関わらず、意味を示す文字が小さく、扱いにくい。使えないシンボルは不要である。
※	全て選択ボタンが欲しかった
※	アプリで発表ごとに記録した「メモ」が、Web版には反映されないのは、あとでメモをまとめるときに非常に不便だった。
※	使用しなかった
※	自分の発表に紐づく、大枠のセッションにも、ブックマークしたところから移動できると良かった。
※	プログラムの検索機能で、カテゴリやプログラムとの複数条件での検索できる機能が欲しかった。
※	ミススケジュールでプログラムを見るときに、セッション毎に表示できるようにして欲しい。時系列のみで表示すると、異なるセッションの講演が入り交じることになり、見にくい。
※	スマホのアプリの一部がしばしば機能しなかった。
※	検索時に直前の画面に戻れると良い。
※	メインスケジュールとポスタースケジュールが分かれているのが意味不明。検索後、なぜかタイトルだけのページをワンクッション置いてからアプストが見れる遷移が無駄。
※	演者検索が日本語、英語でどちらでも検索可能だとより便利と思う。
※	会場内のwebアクセスが悪かったため同期が反映されにくかった。
※	会場でアプリが重く検索ができない。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	もう少しSNS機能は簡単にしてほしい。
※	会場内でLAN接続が不可であったのは不便。スマホがあれば良いかもしれないが、
※	メモをとったものの、プリントアウトや転送など、はきだすことができなかったのが残念。webシステムではメモをとることができない？アプリで、メモを取るには画面が小さすぎた。検索機能は癖があるようで、目的の発表になかなか行き当たらなかった(原因不明)全体のタイムテーブル(別冊の小冊子)が便利であった。あの機能がアプリにあるとよいのですが。
※	要旨のPDFへの書き出しと印刷が便利だった。
※	海外からの参加者です。一部の会場でWifiが使えず、WEBシステムだけでは不便と感じます。
※	演題にチェックを入れてもマイスケジュールにはセッションごとにしか表示されないとところが不便でした。
※	発表者検索で全ての発表が引っかからなかったことが使いにくかった。
※	iPadにダウンロードしたが使わなかった。
※	使わなかった。
※	ほとんど利用しなかったので評価はパスします。
※	要旨やマイスケジュールをPDF化できる機能が素晴らしいと思った。
※	会場全体の地図がない。
※	大会前後にディスカッションのやり取りなどできると面白く、今後の学会年会のあり方にも関わるかもしれない。
※	素晴らしいアプリだと思います。是非フリーで公開して、日本の学会のスタンダードにして欲しいと思います。毎年、各学会の担当研究者が毎年膨大な時間とコストを強いられているのが現状で、日本の科学にとって大きな損失です。以前はWEBブラウザ版のみでしたが、アプリ化することでオフラインでの利用が出来るのが良かったです(iPadなどWiFiしか使えない端末で有効)。
※	シンポジウム内の内分けされたその日の一覧のページがほしい。アプリをとらずともwebで見るとも可能にしてほしい(携帯)
※	事務手続き提出用に印刷できる、タイムテーブルとプログラムが冊子と同じような形のPDFファイルがほしいと思いました。
※	SNS機能をより活発に利用するための仕掛けがほしい
※	タイトルとキーワードからだけの検索であると網羅性が低いので、可能であれば要旨本文も検索対象に入れて欲しい。
※	プロフィールを非公開に設定した方が多いように感じ、せつかくのSNS機能が勿体ないと感じた。
※	演題から、会場の場所や目的のポスターの場所にリンクできるようにして欲しい。
※	イネ！を付けた人の名前は付けられた本人に分かるシステムがよいです。
※	スマホからの検索が使いにくかった
※	演者で検索したその結果から、マイスケジュールに登録できなかった。マイスケジュールの表示順がよく乱れるバグがあったように思う。
※	使用していません
※	個別演題のサイトに入らないとマイスケジュールに入れることができない
※	人名検索が使いにくかった。例えば「氏」と「名」の間に空間を入れても入れなくても検索できるようにしてほしい。特によくある「氏」の人を検索するときに使いにく感じました。
※	今回のアプリは非常に使いにくかった。各発表からシンポジウム全体のへのリンクがなかったから？あったのに気付かなかったのかもしれませんが、少なくともすぐには分かりませんでした。これまでとは開発元の違うのですか？
※	経費とのバランスで考えて欲しい
※	アプリの反応が遅かったり、スケジュール登録が不便な事が多かった。可能ならば、特別なIDやパスワードを共有した同一所属内等だけでスケジュールを共有出来る機能が有れば良かった。また、演題登録時にキーワードを自由記述以外に過去の傾向から頻出ワードを幾つか選択出来る様にして欲しい。若干の表現の違いで検索にかからず、見落とす事があった。
※	ガラケーなので、会期中は使用不能。
※	使っていない。
※	昨年の方が使い勝手がよかった。
※	iPadにアプリインストールができませんでした。
※	オンラインでの使用は可能性があり支持するが、毎回アップデートを、要求されるのはわずらわしかった。snsも今後に期待。
※	マイスケジュールが時間別にカレンダー上に表示できると視認性が上がってありがたいのですが。
※	全体的には良かったが、スケジュール一覧でシンポジウムとポスターを分けず、1日分をまとめて1つのページから詳細に飛べるようにしたほうが良いのではと思う。
※	ポスターの一覧から各ポスターの詳細に飛んでから一覧に戻ると、一覧の先頭に戻ってしまい、見たところまでスクロールし直さなければならず、使いにくかった。
※	会場のネットワークが全く繋がらなかった。改善を求めます。
※	会場でのWiFiが混雑していて、使えなかった(意味がない…)
※	企業ブースを探すのが難しかったので、もう少し工夫があるとよかった。(工夫と言っても具体的なイメージはついておらず申し訳ございません)
※	スマートフォン、Padのアプリだけでなく、コンピューターからの検索や閲覧もソフトなどでもっと簡単にできた方が便利です。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	全体的には大変使いやすく、スマホの画面で十分な見た目と情報量で満足。演題絞り込みの際、下層のカテゴリーがすべてであるとありがたい(ポスター>日付>ジャンル ポスター>ジャンル>日付 など)。大会中はオンラインであるならば、実際のシンポジウムの進行などを反映させてほしいと思った(必須ではないが、そうでないならオンラインの意味があまりないと感じた)。
※	検索して出た演題をスケジュールに入れたかったが出来なかった。
※	閲覧できる期間が限られていたため過去の年会で作成したメモ等にアクセスできなくなってしまった。メモ等をバックアップできたらよかった。
※	共有を選択できるような設定だったのが良かった。前回この機能の選択ができなかったのが不満であったが、改善され、今回は使いやすかった。pdf一括ダウンロードも便利だった。アプリのデータの更新も前はフリーズするなど邪魔だったが、今回はスムーズで、使いやすかった。今回の方法で続けて欲しい。
※	スマホ、iPadを使用していないので、本システムは利用していない。
※	発表者検索をして、その人の発表演題を確認できても、そこからマイスケジュール登録やいいね！を押せないようだったので、少し不便でした。いいね！ボタンはあまり使われてない印象だったのでせっかくあっても意味がない感じで、その辺は難しい課題かもしれないと感じた。

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	参加していないため使用しておらず、無回答をお願いします
※	あまり必要性を感じなかったので、未使用のまま参加しました。
※	使用していない
※	アプリを中心に、全体のタイムラインがみられる小冊子で会場とシンポジウムを把握して動いていました。ウェブシステムはホテルなど広い場所のあるところで使用
※	一部の会場でWifiが使えず、ITシステムの使用は利便性が少ないと感じました。
※	学会開催前の検索にWEBシステム、開催中はWEBシステムで作ったマイスケジュールをアプリで使用した。
※	不参加
※	聞きたい演題を絞り込んでいたこともあり、要旨のプリントアウトを持参した。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	シンポジウム全ての傾向として、今回は特に、取り扱う領域が狭くなりすぎた感じがあった。オーガナイザーの研究の特色を出すのも良いが、その領域を代表していると言い難いオーガナイザーが選ばれている指定のシンポジウムのような場合は、特に発表や議論が盛り上がらない雰囲気が出ていた。
※	テーマ及び人選が偏っているように感じた。同じ人が、違い学会で何度も話しているように思う。
※	テーマ自体に偏りは無いが、スケジュール上で同じようなテーマが固まってあるため、聞きたいのに聞けないシンポジウムが多かった。
※	偏っているというか、ピンポイント過ぎるので、隙間産業の口頭発表機会が無さすぎる。
※	11月30日の午前中に用務がある関係で、初日の〇〇〇氏の話の聞くことができなかつたのは、とても残念だった。
※	同じようなテーマが複数あるような気がしないわけでもない。
※	毎回、毎回、同じ人が行っている。科研費の領域で固まっているのもあり、業績稼ぎにしか見えない。
※	偏っている上に、数が多すぎると思う。同時進行で分散しすぎている。だったら、分子生物学会に来ないで、個別の専門的な学会に行ったほうが、よほど密度の濃い議論もできるし、十分に発表もできると思う。トピックを聴くための学会ではなく、「とりあえず発表」するための学会、になってしまったんだな、と実感した。
※	幾つかのシンポジウムは内容的にオーバーラップしている。これらをまとめて、シンポジウムの数を減らす方がよい。
※	早朝なので仕方ない
※	今回のシンポジウムは、全般的に扱う研究領域が狭い感じが否めず、指定シンポジウムであっても、オーガナイザーがその研究領域を代表しているとは言いがたいセッションもあり、面白いと思えるプログラムが少なかった。
※	言い方は違うが、結局同じような内容のシンポジウムが多かった。シンポジウムは乱立させればよいというものではないと思う。
※	テーマはよいが同じようなシンポジウムが同時に進行すると聞けない。人気のある会場はもっと大きな部屋をあてるべきである。
※	同じカテゴリのセッションが多数同時刻に開催されていた。テーマが偏っているためではないか？
※	いつも似たような面子が揃っていて意外性がない。
※	分子生物より(分子生物学会ですが、扱うテーマは幅広いので)なテーマが多かったと思います。専門外でしたので勉強になりましたが、なぜそのシンポジストであったのかを(著名な先生方ではありますが)、要旨集などでご紹介くださってもよいかと思ひます。
※	シンポジウムでの一般公募枠が少なく、願わくば一般公募枠が増えると、若手にとって学ぶことが多いかと存じます。
※	研究の流行はありますが今回、3-4コ分野で集中している感じでした。
※	テーマが少し細分化しすぎており、口頭発表を希望する際にどこに申し込んでいいのかわからず、困惑することがあった。
※	分野の近いシンポジウムの時間が重なっていたため、どちらかしか見られなかつたのは残念だった。シンポジウムの内容によって日時が重ならないように考慮してほしい。
※	今回新しい方もいるが、やはり同じ方が話している印象は否めない
※	テーマが細かい。ニッチを狙ってばかりの印象を受ける。
※	テーマは偏っていて構わない。トピックを主催者の意思で選べばよい。あまり総花的に網羅しようとする、各々のシンポジウムが専門分野の小学会と変わらなくなる。
※	テーマは適切であるが、類似したテーマの時間が重なっていて残念だった。
※	難しいのかもしれませんが、医学系に偏っているように感じました。
※	毎回、同じ人およびその人の関係者の内輪で行われている。
※	プレナリーにそれほど興味を持てなかつた。逆に見たいシンポジウムが多かった。
※	モーニングセミナーには興味はわかなかつた。部屋によっては、スライドの表示場所が下の方で、後ろの方の席からはスライドの下半分が見えない。もう少し上に表示できないか。廊下にモニターを出していた部屋がいくつかあつたが、満席の部屋では立ち見もできなかつたので、廊下にモニターが出ていると助かる。
※	現在研究が盛んなので偏っているかは難しいが、今回自分がミトコンドリアに興味があつて行つたのでシンポジウム何個もあつたなあと感じた。別に悪いわけではないし、自分的には勉強になつたけど、どうなんだろう。もはや朝から晩までぶっ通してもいいのかも…。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	重厚なシンポジウムが多かったので、軽めのワークショップもあればいいと思った。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	例年と同じようなタイトルのセッションが、同じような座長(グループ)によってオーガナイズされているように見える部分がある。そのようなセッションでは同じような演者(座長自らを含む)が選ばれがちであるが、今回は「公募演題」も採用されたことで演者の顔ぶれに少しは多様性が出たのが良かった。しかし、全般的には公募枠は非常に少なく、もう少し公募枠を増やしても良いのではないかと思う。
※	下手くそな英語で無理に発表しなくても、日本人は日本語で話したほうが良い。同時通訳を導入すれば良い。
※	どちらのシンポジウムを聞きに行くかという葛藤が毎回ある。講演を録画しておいて、一定期間(1週間くらい)ウェブ上でみることができたらうれしいのだが、、、
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	内容が被るシンポジウムの平行開催が多く、参加中戸惑った。もう少し、配慮されることを希望する。
※	重複したテーマがいくつかあったように思います。もう少しテーマを集約したほうが良いように思いました。
※	シンポジウムの内容について十分に考慮した上で会場の大きさを決めて欲しい。満員で入れない会場もあれば、半分以下しかひとがいらない会場もあった。
※	すがすがしい朝に、びっくりするような先生の講義が聞きたいです。今回は寝てしまいました。朝ですし。
※	「海外からのシンポジスト」も参加会員のためになることを主眼として、会員にとり、どのように役に立つのか、どのように発表させるかなど、呼んだ者(座長?)は、より配慮すべきだ。
※	テーマは十分だが、もう少し会場が広いほうが良い。立ち見の人間が多すぎたと思う。
※	一般演題からの採択枠が小さすぎた。ポスター発表にレベルの高い発表がたくさんあったが、とても回りきれなかった。
※	近隣諸国からも世界をリードする論文が出ている。年齢/身分にこだわることなく筆頭著者を招いたらどうだろうか。
※	流行りがあるのは仕方ないが、テーマをもう少し増やして欲しい。また、思っていた以上に医学系やトランスレーショナルな方向の研究が増えたと思われるが、これらに特化してゆくのではという不安がある。
※	生化学会と合同にならなかった事で、分子生物学会らしい良いテーマがそろっていました。
※	不参加
※	関連シンポジウムが同日に並び、聞きたいものをどちらしか聞けない状況があった。
※	増やす事はシンポジストのみならず、おそらく一緒に付いて来るだろう海外の研究者との接点も増やしやすと考えられる。気のせいか、今年はポスターセッションまで見に来る外国の方が例年より少ない様な気がしたので、特にそう思う。
※	プレナリーレクチャーの時間帯を昼間にして、多くの人に参加できるように広い会場で実施して欲しい。
※	シンポジウムの発表時間が短すぎる(12分間)。15分あれば良かった。
※	シンポジストが友達同士で質疑応答でもワイワイと内輪で盛り上がっている感が強かった。自然と英語もスピードが上がり、聞かせる英語ではなかった。

質問9. シンポジウムの使用言語について（その他）

回答者番号	その他記述
※	参加したセッションでは日本語質問可というアナウンスはなく、このアンケートで初めてしりました。各セッションでアナウンスしていただけるとよいと思います。やはり現状では英語オンリーでは質問者が限られてくると思います。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	日本の学会なので、日本語も「臨機応変に」取り入れるべきと思う。国際化はたいへん重要であるとしても、日本語のサイエンスが失われないような環境も大切と思う。
※	下手くそな英語で無理に発表しなくても、日本人は日本語で発表したほうが良い。同時通訳を導入すれば良い。
※	英語セッションで日本語可としても、遠慮してるのか、なかなか質問はありませんでしたね。
※	深みのあるディスカッションという大義名分のために、英語しか分からない人たちを置いてけぼりにするのは如何なものかと思いました。
※	日本語も可はせつかく英語でやるのに意味がない。そしてすべて英語にすべき。
※	日本人の発表を日本人が聴いてディスカッションする場合は、日本語がいちばんだと思う。
※	日本人の参加者が圧倒的に少ないにもかかわらず、英語のセッションがあるのは不満。日本人の下手くそな英語は聞きたくない。英語はスピーカーが外国人のときだけでよい。サイエンスは何語でも出来る。言葉のトレーニングは他のところでやるべき。とにかく多くの人に研究の内容を理解してもらうことが最も重要。
※	わたしは困らなかったが、参加したシンポジウムの講演者のスライドが日本語であるケースが多かった。英語で準備するようにとの周知が不十分だったと思われる。
※	外国人のいないセッションは日本語で十分。そのほうが、ディスカッションしやすい。
※	無理に英語のセッションにする必要は感じない
※	議論を深めたいければ日本語だと思う。発表の場とするなら英語で良いと思う。
※	日本語は日本人には判りやすいが、どうしても聞きたいと思う海外からの方にはスライドだけでも英語であれば良かったと思う。
※	英語を基本にして、日本語は座長ががんばるという雰囲気醸成すれば、言語にこだわる必要はないのではと思います。必然性の問題もあるかなと。好きに話せばいいじゃないというのが本当のところですよ。
※	幅広い分野を取り扱う学会なので完全日本語が望ましい。
※	スライドは日本語も可にしておくべきだと考えてます。少なくとも、こうしたものは発表言語に依存するべきで、スライドを英語に縛った意義はあまりなかった。
※	緩やかな国際化は理解できるが、"日本の"学会であるのだから日本語をもっと推してよい。国際化は国際シンポジウムで行うべきで、住み分けは必要だと考える。
※	日本語でディスカッションが合った場合、そのディスカッションの内容を誰かが英語で繰り返すような流れがあると良いかと思っています
※	「日本」分子生物学会なのだから、使用言語は日本語でいいのではないのでしょうか。英語を使うと、投稿前の生データを出しにくくなります。
※	私は米国に10年間留学していましたので、そこそこ英語は話せますし、理解できます。ただ、日本人の英語をずっと聞いてると、どうしても疲れてしまいます。外国からのspeakerを招いたセッションでは英語にすることは当然とは思いますが、日本で開催される国内学会ということを考えると、今後は全面的に英語、とならない方が良い気がします。その意味で今回の趣旨は妥当であると思います。
※	原則英語 程度にとどめて 日本語も可 とした方が 外国人参加者には分かり易い様な気がした。
※	英語では十分に議論できない。先人達の翻訳のおかげで日本人は日本語で学問を深めることができた。それが現在のノーベル賞の授賞につながっている。母国語で学問ができない国では学問は深まらない。
※	英語セッションで日本語で質問しているひとはいなかったとおもう。
※	全部英語で出来たら一番良いが、議論できないことには仕方ないので日本語も可は妥当。
※	日本語を制限すべきでないと思う。勿論英語で行われるのは歓迎されるべきだが、日本人通しで英語以外話せない雰囲気を作る意味がわからなかった。国際学会でもないのに、建設的な状況ではないと思う。
※	日本の学会ですので、必ずしも英語セッションは必要はないと思っております。もし英語のセッションをするのであれば、言語は統一するべきと感じております。生命科学では研究環境が国際化しているので、英語で深みのあるディスカッションが出来ない人がいるとは思えません。
※	日本語を理解できない聴衆もいるので、英語のセッションは質疑応答も含め英語で行った方が良いと思う。
※	国際化を意識するならば、公用語は英語に限定すべき。
※	そこまで英語を推進する必要は感じられない
※	結局細かいことは日本語でないとわからないので、日本人同士の質疑は日本語が良いと思う。大雑把な英語で話されても質問の意図がわからないことがある。
※	「質疑応答日本語も可」のアナウンスが議長からあるとよりよかったと思う。
※	日本語での発表は海外からの参加者を妨げる壁になっていると思います。これだけ大きな学会なので困難は伴うでしょうが、ぜひ発表の英語化を進めるべきだと思います。
※	言語は指定せず、日本語・英語どちらでも発表者の自由にした方が良いと思います。
※	日本の学会なら日本語で良いのではないかと思う。
※	一貫して英語のセッションがあり議論も活発に行われている一方で、日本語のわからない外国人の聴衆がそれなりにいるセッションでも、彼らを見捨てる形で座長自ら日本語で質問するなどして不自然・失礼に感じた。中途半端なので、それならば日本語指定などにしてしまえば良いのにと考えた。
※	日本語で深いディスカッション出来る学会が少なくなっていく中、分子生物学会が日本語可とする意義は大きいのでこれからも続けて欲しい。

質問9. シンポジウムの使用言語について（その他）

回答者 番号	その他記述
※	国内学会で英語セッションを設ける必要はあまり感じられない質疑応答は日本語でも可といわれても日本語で聞けるような雰囲気にはならない
※	違う分野の英語の聞き取りが難しく、結局日本語のシンポジウムに絞ってしまった。
※	英語セッションと日本語セッションの分類が明確でなく、緩やかな国際化を考えれば英語セッションは必要であるかもしれないが、基本的にセッションそのものは日本語の方が良い気がする。ただし昨年度までと比較して、今年度は日本人スピーカーの英語力が高く大変わかりやすいセッションが多く見受けられた。
※	もっと日本語を大切にしてほしい。
※	参加者の大部分が日本人であるのに、英語セッションが増えて行くのはいかがなものかと思えます。
※	外国からの発砲者がいる場合には、しかたがない場合をのぞいて日本語でのdiscussionは外国からの発表者に失礼に当たると思えます。
※	不参加
※	日本語でも可と言ってもその場の雰囲気によって日本語での質問はやりづらいことがある。セッションによってどちらかにすべきでは。
※	英語のセッションが少なくなっているように感じた。また、日本語セッションでも、スライドの使用言語は英語に徹底したほうが良いと思う。
※	質疑応答を日本語でやっていたところは、活発な議論がありました。また、専門が違って英語でよくわからなかった部分も、日本語の質疑応答で理解できた部分がありました。
※	国際化を目指す全体方針は良いが、ポスター・口頭共に英語に偏り過ぎると海外の学会だけで良いと判断する所が増えて来ると思われる。海外からの招聘などネイティブのシンポジウムを増やす一方で、学部生・修士辺りの年代のためのチャレンジ企画が有っても良いかもしれない。
※	”英語セッションにおいても質疑応答は臨機応変に「日本語も可」というのは知りませんでした。
※	自分の参加していた英語セッションではディスカッションが日本語で行われることはありませんでした。
※	英語強制は必要はない。
※	日本での学会を英語にするメリットはそんなにない。学会は情報交換の場でもある。外国語では情報を共有しにくく、理解も深まらない。
※	さらに日本語を増やしたほうがよい。
※	質問者の英語が演者に十分理解されていないことがあったが、演者への援助がなく、ディスカッションが十分でなかった印象があった。日本語も可となっていたことは知らなかった。
※	公用語を英語にするsessionも必要である。
※	座長が英語に当時通訳していたのなら問題はない。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	以前のように偶数奇数と分けないと、自分の発表で終わってしまい、自分が聞きたい他のポスターを訪れることができないのでは？
※	プログラム編成がうまくできていて、ストレスが少なかったです。ポスター会場も時間がたっぷりしていて、よかった。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	19のセッションが同時進行しましたから聞きたいセッションを聞くことができませんでした。
※	参加したいプログラムが同一時間帯に開催されることがおおく残念だった。
※	ポスター発表に明確に偶数奇数で別ける、という記述が無かったため、いつポスターを離れたら良いのか、もしくはいつポスターの前にたてば良いのかよく解らなかつた(のでずっといないポスターもあったが・・・これはいつもの事か)。なので、はっきりなしに人が来て、自分のセッション中、なかなか他を見に行くことが出来なかつた。
※	ポスターセッションは時間になっても参加者の協力がなく、てんでに質問している状態が続き、座長を置く意味がない。座長がセッションだというとポスターからは参加者がいなくなってしまう、発表者と座長の二人で会話するかたちになった。他の学会ではこういうことは皆無なので極めて奇異に感じた。座長を置いたポスターセッションの時間を取る必要はないのではないかと思った。
※	相変わらず関連性の高いテーマが同日時間帯にくまれているので、解消に努めて欲しい。また、口演内容がポスターで発表される場合は、同一セッションのものはポスターでも全て同じ日にまとめてもらいたい。
※	座長システムにより同じ日の他の演者の話しが聞きにくかつた。
※	奇数、偶数のコアタイムが欲しい
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	なかなかプレゼンターをつかまえられないことも多い。
※	仕方の無いことだがグラントが当たっていると思われる研究分野のセッションが異常に多いと思った。時流に乗るのも必要だが、継続的な議論を行う場も確保して欲しい。
※	日程上仕方ないと思うが、聞きたいセッションが並列で行われている場合が多かつた。
※	ポスターセッションは、偶数/奇数の区別がなかったため、また、発表者が立つべき時間帯が明確でなく、一部に混雑や混乱を生じていました。従来の形式のほうが良かったと思います。
※	ポスターセッションを長くすべき。会場の問題は理解できるが、複数日に渡って掲示して欲しい。口頭発表者にもポスターを掲示させて欲しい。聞きたいセッションが重なることが多いため。
※	ポスターの発表の時間がズレてなかつたので各日の1セッションしか参加できないのが残念。
※	4日間でもよかったのでは
※	最終日は早目に終了してほしい
※	横浜開催の場合に3日間となり、神戸の開催の場合に比べ1日短い。3日間の開催ではどうしてもスケジュールの編成が難しくなると思います。
※	ポスターが多すぎる。短時間でも学生には口頭発表の機会を与えるべきです。
※	ポスターセッションの時間(2.5時間)は悪くない長さだと思ったが、通常申込みの発表者も偶数・奇数へ分けた方が良い。
※	今回初参加でしたが、ポスターセッションは思ったよりも短く感じました。残念ながら他の発表(=自分と同じ分野)を聞きに行くことができず、何かよい方法があればいいのですが。
※	ポスターセッションの最終日は参加者が少めでしたので、最終日も参加したくなるような仕掛けがあるといいとおもいます。
※	学会の科学的レベルは一般演題の質および量で決まると考えているので一層充実させる努力が求められていると思う。
※	従来の4日間の開催の方が余裕があって良かったと思います。
※	ポスターセッションの日程説明が分かりづらく、当日の計画をたてるとき苦労しました。分かりやすくしてください。
※	午前中1つ、午後1つで時間も適当だった。ポスターがゆったりしていたと思う。
※	以前のようにポスターのコアタイムは奇数と偶数で分けたほうが良い。そうでないと、発表者は同日の他のポスター発表者とディスカッションする時間がとれない。
※	多数会場での同時進行と研究領域の多様化から、同一時間帯に近い分野のシンポジウムが同時進行してしまうことはやむをえないが、来年度以降、この点については再考して可能な限りベターな振り分けを望む。
※	ポスターセッション自体の長さはちょうど良いと思ったが、ポスターの発表中(自由討論や座長)に他のポスターを見に行けないのが不満だった。
※	3日間には演題数から見ても無理がある
※	同日の発表時間が同じだったため混みあつたのと、演者は他の発表をなかなか聴きに行けなかつた。
※	三日間にしたのはよかったが、最終日に夕刻までかかったのは参った。地方からの参加者はその日のうちに帰れないこともある。最終日ももっと早く終了すべき。
※	ポスターセッションの進行が分かりにくかつた。
※	不参加
※	奇数偶数などで隣り合うポスターのコアタイムをずらして欲しい
※	ポスター発表だけの時間枠を設定した意味は大きいと思います。一方、学会の本筋論として、シンポとワークショップが毎年多すぎるので、選別すべきではないか。
※	従来通り、偶数、奇数で発表時間を分けた方が良かったと思う。
※	聞きたいシンポジウムが同時時間にあることが多く、聞き逃すものが多かつた。
※	例年より学会の日数が少なかつたため、詰め込まれているような感じだった。
※	奇数・偶数の枠がなかつたので、同日のポスターを聴きに行けなかつた。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者 番号	その他記述
※	自分の発表日に他のポスターを見ることができる時間が少なかった。
※	発表の担当者になると、他のポスターやブースを見に行くタイミングを逃してしまう。「自由討論」とあるので、この時間に見に行けば良いのかもしれないが、ポスターを離れることに罪悪感を感じるため、「自由時間」のようにしていただけるとありがたいと思った。
※	ポスター発表の開始時間や長さはちょうどよかった。
※	例年通り発表する時間を二つに分けてほしい。発表しているとほかの人のを聞きに行けない。
※	もっと口頭発表を増やして欲しい。
※	ポスターセッションの演者対応時間が以前よりも不明確になり、訪問者も時間を通じてやってくるため、自分の発表日には見て回る時間の余裕がとれない。見て回るにはもう少し時間が欲しいが、ずっと自分のポスターに待機しないといけなくなるのであれば、もっと短い時間が良い。丸一日スケジュールが満杯になり、大変疲れる。
※	若い層に標準を合わせるべき。
※	ポスター発表で拘束される時間が長すぎて、同日の他の発表者とのディスカッションができなかった。奇数、偶数の番号で発表時間を分割する方が良いと思う。
※	いたしかたない部分もあるが、内容的に関連の強いシンポジウムが同時間帯にぶつかってしまうのはできるだけ避けてほしい。
※	今回ポスターセッション中、一度もポスターから離れることができず、結局他の人の発表には行けなかった。ポスターの時間はこれぐらいあるといいと思うが、ずっと説明するのは正直きつかった。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	座長と1対1で発表している演者が多数見受けられた。時間も不正確で、基本的に時間をオーバーしていると露が多く、後半の演者の場合は特に人の集まりが悪いようだった。場を盛り上げてくれる座長もいれば、それまで盛り上がっていた場を打ち消してしまう座長もあり、差が出るのはある程度仕方ないが、もう少し適材適所の座長配置をお願いしたい。このような座長制のシステムの場合、座長の質も含めて、発表条件の公平性に問題が出てくると感じた。
※	一般の議論の障害となる。逆に一般の議論中に座長との発表順が回ってくるケースが多く、スケジュールをこなせない場合が目立った。
※	座長制で、必ずコメントをもらえるのはいいが、工夫しないと自分が聞きたいポスターを訪れて聞くことができないのでは？
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	座長と発表者(1対1)という光景が見られた。座長制に慣れていないのかも。
※	座長自身が戸惑っているように見えたり、時間を決めて、大勢の人の前で発表をする
※	座長のコアタイムに不在の人がいたり、印象的には不真面目な方もおられた。座長を引き受けた身としてはたいへん残念。座長システムを数年継続させて分生年会は「こういうスタイル」と周知させていくことも大切かと思う。座長議論のコアタイムの設定は適切だったと思う。
※	「4分発表3分質疑応答」というスケジュールを知らず(どこに記載されているか見つけられず)、事前準備が不足した。
※	座長制は一長一短があるのでどちらでも良いと思います。ただ、座長と共にディスカッションするのは良かったのですが、ポスターの前でディスカッションで盛り上がり、そのままそこに留まる人が多く、座長とともに移動する聴衆？がだんだん少なくなっていました。仕方ないですかね。
※	声の大きな酔っ払いが多く、座長・発表者の声が聞こえなかった。拡声器を導入すべき。あるいは、お酒の開始時間を遅らせるべき。
※	座長制の方向性というか、どの様に討論するようにするのかもっと明確に統一した方が良いのでは？ある座長は独りで聞いて回っているし(時間関係なし)ある座長は集めて大勢に説明させるし(後者の方がより活発な議論が出来るような気がするが)。
※	座長と演者だけ、あるいはさらに1、2名だけという光景を多く目にした。
※	とりあえず、誰かが聞いてくれる安心感がよい。
※	あまり機能していなかったように思います。
※	座長制はよかったかもしれないが、特に必要性はないと思う。
※	実施されなかった
※	一つのポスターにかけられる時間も少なかったためか、期待したほどの議論にならなかったように思う
※	一部の研究者に大きな負担をかけるこの座長制には常々疑問を持っております。見たいポスターを見たい人を見る、という原則を貫いていただきたいと思えます。
※	座長制は機能していないので不要
※	自分自身が座長を担当しましたが、すでにディスカッションが始まっており、そこに割り込むのは難しかったです。また、ポスターによっては、座長と演者だけのディスカッションになってしまって申し訳なかったです。誰かもう一人、シニアな人がいて、掛け合いながら、演者とトークする形のほうがよかったです。また、座長の配置は、ポスターセッションの最初のほうがよくないでしょうか？
※	「座長制はよかった」とした理由を補足します。未だに、ポスターを張りっぱなしで所定の時間帯に説明に現れない発表者が散見されるので、それを防止する意味で良いと思います。
※	座長の来る時間の幅をもっと狭めて欲しい
※	「より密度の濃い発表・討論を」ということでしたが、具体的にどうすれば良いのかよくわかりませんでした。「今から始めてもらいますよ～」と宣言して聴衆を積極的に集めると、とても7分で終える(議論途中で座長が立ち去る)ことはできませんでしたが、発表者に「4分で説明をお願いします」といってもそれができた人は10人中1人で、平均7分かかりました。こうすれば上手くいくという座長へのアドバイスと、発表者に4分で説明する練習を促して欲しいと思いました。
※	座長が既に行われている議論に割り込む事は良くないと思う
※	特に必要ない。(座長も発表者も)セッションの間動けず、拘束されるのがデメリット
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	要らないと思う
※	座長を担当したが、聴衆が0~3人であり、ほとんど機能していなかったと思われる。他のグループに関しても同様だった。発表慣れしていない学生や若手にとっては良い機会になると思うが、ベテランも同じ土俵に立っていることに若干の違和感があった。希望者制にしたり、発表時間を2分程度にして超簡潔に説明するようにしても良いと思った。
※	座長制は善し悪しが有ると思う。普段議論できない座長先生と話すチャンスが作られる一方でオーディエンスを上手く集められず議論が進まない状況にもなる。年度ごとに座長制とそうでない年会を開くのが良いと思う。
※	ほとんど意味がなかった。座長一人だけがポスターの前を回っていたが、負担が大きいかわいそうだった。分野にもよると思うが、このやり方はもうやめたほうがいい。では、どうするべきか？ということになるが、ポスター会場を昔のように活性化することは、もはや不可能になってしまったのではないかと、諦めを感じた。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	座長制が機能しているところと機能していないところがありました(機能していても、座長と発表者のマンツーマンの話になっているケースも多々ありました)。やるのであれば「規定時刻に順番に発表する」ということをポスター発表者なども含め参加者がきちんと認識していないとダメだと思います。ただ現実にはそれは難しいと思いますし、ポスター前で自由に討論することの方がむしろ大事だと思いますので、率直に言って、やめた方が良いと思います。ポスター前で既に行われている討論を遮ってまでポスター発表を強制するべきでないとも思います(そうすると座長制での順番の発表は成り立たなくなります)。
※	座長と共に巡回すると、自分のポスターを見に来た人に対応できない。
※	座長とのディスカッション時間に、すでにディスカッションをしていることが多々あり、それを遮ることも出来ず、進行しづらかった。
※	座長制にしたところで活発な議論がなされたとは思いませんでした。
※	フリートークの方が発表者とdiscussionしやすい。座長の先生方が進めることに注意を払いすぎる傾向にあったように感じた。
※	座長以外にギャラリーがいないと、なんのためにやっているのかわからない。ポスター数が多いので、一部のポスターには良いかもしれないが、座長のみへの質疑応答はそれ以上に多いように見られた。何か別な形式の方が良いと思う。
※	あまり盛り上がりせず、座長と発表者の1対1、というケースが多かったように見えました。
※	不要。意味がない。座長がポスターを見に行けない。
※	座長制を導入するのであれば、当該分野の(真の)専門家を座長に選ぶべきである。その分野の専門家ではない座長が不適切(とんちんかん)な質問をしたり(そのような事例が実際にありました)ポスター発表の評価をするのは問題である。このことは大会のレベル低下に直結する問題であり、その分野の大会参加者が減少(あるいは退会)することにも直結すると思われる。
※	すでにポスターの発表をしているところに座長がくることになり、その人への説明が打ち切られるため、座長はいらないと思う。
※	成立していなかったような気がします。関心があるポスター発表には自分から行きますし。年齢的な問題かもしれませんが。口頭発表のながれでポスター発表で直接質問できるような感じがいいのでは?あまりこのあたりの仕組みをいじっても仕方がないような気がします。
※	座長が来ると質疑応答を含め他の人がポスターを見れなくなる。一方で、発表者をポスターの前に立たせるには有効とも思う。
※	他に発表があるならともかく、座長のみでの参加で参加費を取るシステムはやめて欲しい。発表もできなくて、お金だけ取られるのは納得いかない。
※	全体的に時間が長引いてしまっていて、後半の発表者は聴衆も無く、とても活発な議論とは言い難かった。座長に当たり外れがありすぎて、フレキシブルに上手くできる座長もいれば、活発な議論がされているポスターにタイミング悪く割り込んだり、質問も低調で冗長に進める座長もいた。もう少し慎重に時間の配分を決めたり、座長の選出を行ってもらえば良かったと思う。
※	座長として参加したが、順次ポスターを移る際に既に始まっているディスカッションを中断することになり、必ずしも良いとは言えない。また、多くの場合議論を整理するより自ら質問する(せざるを得ない)が多かった。あくまで、来訪者の少ないポスターへの対策とするのなら、各ポスターをより短い時間でグループ発表者全員でまわるような事をしない限り、不十分。これとて、個々のポスターに興味をもった聴衆と発表者のディスカッションタイムを食うことには変わりはない。この何れを大切にすることは判断の分かれるところで、真摯な検討の上、次年度の方針を決めて欲しい。方針決定の経緯に関しても、会員間で情報を共有すべきである。
※	こちらの研究に興味を持っていない人間とのディスカッションは正直苦痛。余計なお世話。
※	昔は(生化学会大会だったか)特に何もしなくても、座長のまわりに人が集まって議論が盛り上がっていた。今回の企画もそれを期待してのことだと思うが(私も期待していたが)、実際に見た範囲では、座長と発表者とが1:1で話していることがほとんどで、議論の活性化という意味ではまったく機能していないように見えた。何がどう変わったのかは正直なところ、よく分からない。他では盛り上がっていたのかもしれない。座長がdiscussion leaderとなって議論を盛り上げるような工夫が必要ではないか。
※	座長が回ってきた時間が遅く、終了まじかであり、座長のために説明をしたような状況でした。座長の必要性は特に感じません。
※	ほとんど認識がなかった
※	ほとんど機能していない。座長が一人で移動している状態で、議論を活発化できていない。このような大きな学会には合わないように思います。継続するなら、やり方を工夫しないと。改善方法は分かりません。
※	座長によって差が大きすぎるように感じた。座長一人でいつの間にか回っている人もいれば、必ず聴衆を引き連れて座長をしている人もいた。座長内でのルールをもう少し統一してほしい。
※	座長制は適切に機能していなかった。偶数番・奇数番の振り分けが今年度はなされておらず、会場が混雑しているため、座長が聴衆を引き連れる形での進行は無理がある。規模の大きな学会では聴衆はポスター全てに興味があるわけではなく、自分の興味のあるものをpick upして見ているので座長制で順番にディスカッションしていくのは無意味。
※	座長制はそこまでおおきく機能していなかったです。全日程自由討論という形式に実質上なっていたと思います。
※	主催者が意図したような聴衆を巻き込んでのごろんにはうまくつながってなかったと思う。ポスター会場では至る所で議論が起きているため、発表者のとなりにはないと声が聞き取れないレベルであるため、現方式での座長制にはやや無理があるのでは?
※	会場が、他の発表、質疑、会話などの雑音で聞き取り難く、論点をしばったり(座長の努力が必要)、希望発表のみとした方が良いかと思う。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	座長でした。座長の持ち時間が一人に対して7分になっているが、これをスムーズに全員時間内に行うのはかなり難しい。発表者が聴衆に説明している途中だったり、ディスカッション中に、割り込んで説明をしてもらうのは無理がある。見渡しなから、区切りのよい時にランダムに説明を求めました。座長制の意味がどれだけあったのか疑問。
※	自由討論の時間を短くすることにより、コアタイムの発表時間(4分)をもう少し長くして欲しい。
※	やり方自体にコンセンサスがあるわけではなく座長任せで、余り意味を感じません。発表者の声もマイクが無いあの会場では殆ど聞こえませんでした。
※	座長が一人で回っているだけだったので、本来の趣旨とは離れているのではないかと
※	自分が参加したセッションではあまり機能していなかったように感じた。
※	座長と言っても、実際には1:1となるが多かった。
※	ポスターの座長制は良くなかった。座長が回ってくる前に、すでに他の聴衆とディスカッションが盛んにおこなわれているため、座長の意味がなかったように思った。
※	座長制という制度自体は素晴らしいと思う。利き手側としてもポスターセッションの短い時間の中でも聞きたい演題はたくさんあるので、時間を区切って発表の時間を設けることで時間効率が非常によく感じた。特に、内容の似た演題が近くに配置されていることでさらにこの制度の利点が引き立った。一方で、自由討論時間の間に挟んだことで、自由討論から引き続いてディスカッションを行っているポスターは中断するか飛ばす必要があり、口頭発表のようにスムーズには行えていなかったという点で、改善の余地はあると思う。
※	座長制は不要。座長も発表者も声が聞こえないし、ポスター発表での個別の議論の機会を奪うことになり、ポスターでの議論というメリットを活かせない。
※	座長制など廃止して自由に発表すべき
※	実際、時間内に終わった発表がどれくらいあったのか、座長の先生方にアンケートをとってみると、今後の時間配分の参考になるのではないのでしょうか。
※	座長を採用することは良いと思う。しかし聴講者数がポスター、時間の両方で異なるので、もう少し何か良い方法は無いだろうか？(私も良いアイデアがありません。)
※	失礼な座長によって議論が打ち切られた。偉そうな座長(〇〇〇、〇〇〇センター)のマナーが悪かった。タイマーを持ちながら発表者との議論を邪魔するのは非常識。
※	いつものように奇数偶数で分かれていなかったの、同じ日のポスターを聞きづらかった
※	座長制の導入自体は良かったと思うが、今回同様に自由討論の時間も確保して欲しい。また、座長を中心とした発表の開始がグループごとにバラついたために動きにくく感じるがあったので、自由討論の間に挟み込むのではなく最初に行うことを考えても良いのではと感じた。
※	大抵座長が一人で議論していた。それはそれで良いと思うが、狙い通りにはなっていないと感じた。
※	自分の発表と他の方の発表をみていて気づいたのですが、座長によっていろいろな方法がありました。一人ひとりに説明と質問される方、発表者全員を集めて、1発表ごとに議論する方。それぞれ良し悪しがありますが、個人的には全員で議論、というものを試してみたかったです。
※	これにより、発表者とのdiscussionが中断されてしまうことが多々あった。
※	発表時間を5分にしたいです。
※	座長がいるセッションとないセッションがあった。
※	座長が時間に縛られていたため、別の人と話していても一度中断して座長に説明をしなければならず、途中で止めてしまった人には申し訳なかった。
※	座長制度は良いと思うが、発表時間に合わせて聞きに来る人が少なかったように思った。座長の先生とほぼ1対1のようになっている場合があった。にこの制度がもっと浸透すれば良いと思う。
※	座長制にしても、特に良い点も悪い点も感じなかった。一般の方と変わりを感じなかった。
※	私の座長の方は熱心であったが、同時に聞いてくれた人は数人でマンツーマンという雰囲気であった。同一セッションの人が集まり、座長を中心として一人2分発表+質疑応答(画一的でなく適時)で進行させるのはひとつの方法と思う。思わぬ所からヒントが得られる可能性がある。
※	一人当たりの時間が短かった。自由討論とあえて分ける必要は無かったと思います
※	ただ座長が回ってきて説明をさせられただけで、極めて形式的であった。さらに、他の聴講者に説明している途中に回られてきたので、議論を中断せざるを得なかった。利点がなんら見いだせない。
※	座長が時間内に回って来ず非常に不満だった。誰が座長であるのかと分かりやすいようにして欲しい(顔写真や帽子、ワッペン等)。
※	座長にお越しいただいたタイミングが、ちょうど参加者に説明しているタイミングと重なり、非常に間が悪かった。その場では説明中の参加者にご了承頂いて、最初から説明をやり直したが水を差された感は否めず、座長の先生も非常に申し訳なさそうで、結局全員が不幸になったように思えてならなかった。設定されていた説明4分・質疑3分なども管理されず(できず)、非常に非効率であったし、導入するならば付け焼刃的な対応ではなく、より工夫が必要と感じた。座長とコミュニケーションが全くと言っていいほど取れなかった点からも、今回の座長制に全く意義を見出せなかった。
※	座長と発表者の二者のみの議論の場面が多く見られました。この場合、あまり座長制のメリットは生きてこないと思いました。ただし、絶対に少なくとも一人は関係者以外の先生が真剣に議論してくださるという点は座長制のよい点だと思います。
※	英語での発表者を無視した座長が居たのが残念であった。うちの留学生は、説明時間が与えられず、飛ばされたそうです。座長の対応がまちまちだったので、きちんと何をするかを決めてもらった方が良いと思う。
※	いい制度だと思いますが、議論の途中で座長の方が来て遮られる場面もありました。
※	座長ごとにやる気の差があって、活発なところとそうでないところの差が激しかった。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	あまりお客さんが来てくれない時間帯、座長が発表を聞いて下さるのはありがたい。しかし、他のお客さんと話が盛り上がっている時に座長に割り込まれると、話が強制終了してしまいもったいないと感じた。自分の研究テーマが座長の研究分野にはまっていない場合、やっつけ仕事として座長をこなされているように感じた。座長制を導入するのならば、座長と発表者両者のコミュニケーション能力のさらなる向上が必要だと考える。
※	座長とだけでも話ができることは、発表者にとって勉強になると思う。誰も来ないという最悪の事態が回避できるシステムと思う。
※	座長をしたが、座長と一緒に演題を聞いて回る人はほとんどおらず、演者と座長の1対1に近い説明だった。また、4分で発表できる人はほとんどおらず、話が7分になって時間切れになる場合もあった。
※	座長の質が全体的に良くなかった。助教を中心に選ぶという方法ではなく、きちんとマネッジできる人を選ぶべきである。
※	趣旨そのものには賛成。しかし、座長と一緒に移動する人が少なく、座長だけが聴いているケースもあった。機能させるには工夫が必要。
※	座長制は周知されておらず時間も適当だった。
※	座長による進行のはっきりとした区切り目がわからなかった。
※	ポスター貼り逃げが減るのでとても良いと思う。しかし、今回あまり周知されていなかったのか、私が見ていたポスターセッションでは、全然人が集まっておらず、座長とポスター演者のみ、くらい閑散としていて、かわいそうなので関係ないセッションにも参加してしまうくらいであった。はじめる前に各セッションの発表者を全て集めて、全員で回っても良いのかな、と思った。
※	座長により進行の仕方や時間の厳密にばらつきがあり、座長自身もよく把握していないところもあったようだった。座長制度を続けるなら、基本的な進行はあらかじめしっかり決めた方がよいと思った。また、奇数偶数の発表時間が分かれていなかったの、スペース的に窮屈だった。分かれていた方が、発表者が他の発表をみる時間もあり、発表自体もやりやすいと思う。
※	私はポスター座長を担当したが、10人の発表者の中から1人だけを選ぶのに非常に頭を悩ませた。今後は1つのポスターに対して、少なくとも座長2人が担当となる形が望ましいと思う。現状は各座長の審査基準がバラバラすぎる。優秀ポスター賞を受賞した人は、私が確認した限りでは、准教授から修士の学生まで幅が有りすぎる。准教授がポスター賞を受賞したエリアにいたポスポクや博士課程の学生などは不公平感を募らせたことかと思う。座長を2人にして、複数票を投じてもらった中で選ばれるようなシステムにするか、30歳以下や博士卒業後何年の人を対象とするなど制限を設けると不公平感が多少は除かれるかを感じる。
※	・基本的に座長の質疑応答とは無関係にディスカッションが進んでいます。議論自体は活発にすすめていただいていたほうがよいとして、座長が回っているときは傍観しつつ、終わったそばから熱いディスカッションを始められるのは何ともバツの悪い思いがしました。・座長制にしたことで活発な議論がなされた」ことはないと思います。少なくとも私の担当したエリアの周囲では。・何事も浸透するまで時間がかかるので引き続きこのシステムを宣伝するか、ポスター賞を豪華にするなどのインセンティブを増やしていただければ、と思います。
※	今回は参加していないので、何とも言えませんが、基本的には座長制はあまりよくないと思っています。演者が自分の時間だけしかたなくなる傾向があるので、自由な質疑がしづらいです。
※	座長制はじゃま。むだ。意味がない。ない方がよい。
※	座長が一人できさっと巡回するだけなのでディスカッションに深みがなかった
※	座長への説明が最優先となっており、説明を聞いているひとがいても、すべて中止させられてしまい残念だった。せめて融通を利かせてひとのいないポスターから回るなどして欲しかった。座長からの質問もほとんどなかった。
※	論文発表と並び学会発表が実績として評価される時代に、ポスターを貼るだけで発表者が立たず、業績とするのはおかしいと思うので、座長制は続けて欲しい。
※	7分は短すぎる。座長を増やして、討論時間を長くするべき。
※	座長が回ってくる前にすでにポスター前で説明・議論が始まっていた。自分の時間になった時に、それまでの議論を途中で止めなくてはいけなかったの、聞いてくれていた相手に申し訳なく思った。発表が始まって聴衆は座長だけになってしまったので、この形式は必要ないのではないかと思った。
※	Late-Breaking Abstractにも座長制を導入してほしい
※	座長の方が大変熱心な方で、大いに議論できた点は良かった。ただし時間がどうしてもおろしてしまい、後半の発表者にとっては時間の読みが難しかった。
※	座長が巡ってくる順番(先か後か)で人の集まり具合とかが決まってしまう、後ろの方の順番の人はやりづらかった。
※	一般口頭発表を復活させてほしい
※	座長制は良くも悪くもない。座長制にしたことにより活発な議論があったとは思えない。
※	かえって時間の制限が厳しかった
※	やるのであれば、半端なものではなく、もう少ししっかりとした形式ののっって行うべきだと感じた。今回の座長制では、ただ発表を聞きに来た方々との違いが見られず、やる意味に疑問を感じた。また、座長さんが聞いている間は、他の人の自由な討論の場がなくなっているため、やるのであれば、制度をもう少し整えるべきだと感じた。さらに言えば、発表者も動きにくく、これまでと比べるとやりづらかった。
※	問題点を以下に挙げた。1. 演者がこない場合がある2. 聴衆がまったくいないポスターが出てしまう3. 活発に議論がされているポスターにポスター座長が割って入る必要出てしまう。
※	私の学生の発表はある座長の方の始めのポスターだったが(次が通路だった)座長の方が次のひとからはじめて、発表の機会を与えられなかったのは(せつかく練習したのに)大変残念だった。座長制にしなくても、興味があるポスターには、しっかり内容をたずねるので、座長制にしなくても良いと思う。
※	担当した座長の能力に疑問をもった。基本的な知識がなく、全く議論が進まなかった。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター発表を聴いている途中で座長が回って来られ、座長のために発表を最初からやり直すことがあり、迷惑であった。
※	座長がいることで、発表者は少なくとも座長と議論できる。
※	不参加
※	座長の後に、だらだらと着いていくパターンが割と見られたが、非常に邪魔に感じた
※	座長制を取り入れたが、あまり有効に機能していなかった。もう少し、人数を集めて、説明・討論をするようにした方がよい。
※	時間的に焦っている感じで、また、少しい外れな質問をする座長もいたので、人選は重要課題です。
※	座長が1人で回ってらしたので、あまり意味を成していなかったように思う。
※	決められた時間内に座長が回ってこなかった。また、座長の興味によって、長く議論するポスターもあれば、早く終わらせようとするポスターもあったと思う。座長という立場を引き受けている以上、すべてのポスターを公平に扱うべきだと思う。
※	やる気の無い所では座長1人だけでサラッと回って軽く話して終了するなど形骸化しており、逆にやる気の有り過ぎる所では関係者に迷惑が掛かる程議論を長引かせて纏めずに時間を掛け過ぎるなど差が激しかった。臨床系の学会で各分野に同じ位興味の集まる人が居るならともかく、扱う幅が広過ぎて興味によって集まる人の差が大きい分生には向いていないシステムに思われる。
※	どこで発表してるか人が多すぎてわからない。声も聞こえないので携帯型マイクを使用した方が良いのでは？
※	私の専門分野に近い領域のポスターセッションでは座長制は完全に形骸化していた。私がポスターの演者とディスカッションしていると突然座長の先生がお一人で来られて、「定刻ですので今から7分間で発表と質疑をお願いします」と割り込まれてしまった。自由にディスカッションするスタイルが定着しているところにオーディエンスを引き連れて座長制でセッションを進める形式はなじまないし、座長の先生も大変お気の毒だったので、ぜひ元に戻していただきたいです。
※	座長が来るまで待たなければならず、近くのポスターものぞきにいけない。以前に同様の取り組みが行われたことを記憶していますが、すぐに消滅しましたね。
※	ある座長が、すでにポスター前で議論しているものを遮って、最初から説明させていた方がおられたので、座長の方のモラルも必要だと思います。
※	4分発表3分質疑で十分な議論ができるとは思わない。ポスターは口頭と違い、内容をじっくり聞いてもらい理解してもらった上で議論するというスタンスの方が良いと思う。
※	自分のポスターに張りついていないといけないう時間がながく、同日の他のポスター発表を見たり、ディスカッションする時間が取れなかった。
※	本大会の規模だとポスターが多すぎてあまり機能しているようには思えなかった。
※	4分発表3分質疑応答は守られていなかった。ポスターを個人的に説明している人の順番が飛ばされて後回しになるなど、進行が不明確だった。
※	座長との1対1の発表と質疑応答になっていたのが、グループの全員参加のほうが良いと思いました。
※	座長による進行をセッションの途中に入れると、すでに聴講者との議論が終わっていたりすでに聴講者が発表を観終わっていたりして、座長と一対一で進行することが多かった。セッションの最初にして、後半は自由討論という形にした方がよいかもかもしれません。
※	ただ座長をする人は大変ですね。座長を選ぶのも。
※	特に後半は発表者と座長のみ、みたいなところも多く見受けられた点は良くなかった。
※	自分の場合、フリートークの時間から質問者が来て議論をしていたので、座長が必要だったとは思えない。前回の座長制があった大会でも同様の回答をした。
※	演者に説明してもらっているときに「時間だから」ということで割り込まれたり、質問し終わって次に移ろうというときに「一緒に聞け」と強制されたり、全く心外で貴重な時間の浪費にしかありませんでした。
※	ポスター担当時間に場所を離れないと他のポスターの演者と討論できない。偶数/奇数で2交代制にした方がよい。
※	ポスター発表時間の途中から座長による進行が始まったため、人が集まりにくかったように思う。
※	実際には10分以上かかることも多く、7分というのは無理があるのではないかと。また、座長制と言ってもほとんど1対1の討論なので、他の聴衆はそれ以外の時間に討論することになり、議論の活性化には必ずしもなっていない。座長の負担も考えるとあまりメリットは感じられない。
※	自分の発表したところでは全く機能していなかった。いつ来ていたかわからない。
※	各発表のショートプレゼンを聞いている人が座長以外にほとんどいなかった。しかし、ショートプレゼンをして少なくとも座長とは議論を交わせるので良いシステムだと思いました。
※	私たちのポスターの区分では座長がお一人で順にディスカッションされていました。ともについて回る人は誰もいず個々の発表に対して議論の呼び水になってはなりません。座長が当該ポスターや隣のポスターのところにいらっしやる時間帯には口を出しにくく結果的にかえって議論を阻害していたようにも見えます。奇数、偶数別の発表時間がなかったことが最もよくなかった点だと思います。
※	別の人とDiscussionしている最中に座長が入り込んできて、Discussionがさえぎられてしまった。
※	マイクとスピーカーを各セッション毎に配備しないと、聞こえにくいので、時には座長と演者の2人だけで、聴衆なしというケースもあった。
※	ポスター発表での質疑応答は不要だと思います。ほとんどその時に人がいません。口頭発表を増やして欲しい。
※	自由討論を途中で中断しなくてはならない場面もあり、あまり意義を感じられなかった
※	・ポスターセッションの境界がわかりづらかった・パネルの間隔が広過ぎたため説明やディスカッションの音がほとんど聞こえなかった

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	時間通りには進まないのではとのほうはつかえていた。
※	ポスターdiscussionにマイクを導入すべき
※	座長が一つのポスターに15分以上留まり、担当学生のプレゼンは終了時間間際になった。さらに後ろの演者は当然ながら終了時間後になっている。いくら座長に依頼しても同じことが起こるので、座長が個別に回ることを禁止し、座長が周囲の聴衆に声かけをして聴衆を集めて移動することを義務付けることが必要、つまり他人が座長の暴走を監視する必要がある。もっと確実な方法は、座長に加えてタイムキーパーを用意して、座長の運営を監視することが必要。なぜこのように強く求めるかと言えば、今回ポスター賞が設定されており、時間外になった学生は受賞のチャンスを逃すことになり、極めて不公平であるから。
※	座長制には異論はない。発表者の対応時間がはっきりしないため、結局ポスターセッションの時間全体を通してポスターのところにいないといけなくなり、他のポスターを見に行けなかった。同日に同じような分野のポスター発表が集中するため、チェックしたい発表も多くなるが、動けなくなると困る。全体的には活発に討論はされていたと思う。
※	座長制がうまく発表者、座長ともに理解が行き届いていない様子のセッションもあり、今後も続ける場合改善が必要と感じました。
※	座長制は指示するが、今回の形式は良くなかった。参加前は、座長が司会となり、順次、発表者が公聴者に向けて発表すると考えていた。しかし実際には、座長と1対1でディスカッションするのみであり、座長は単なるポスター賞選考者でしかなかった。また、時間も大幅に遅れていた。
※	結局座長が”優秀ポスターの審査員”として聞きに来るだけで、特に活発な議論がなされるきっかけにはならなかったと思う。
※	趣旨は悪くはないが、7分は長い(多くの分野を回っているのであまり長く立ち止まりたくない)。やるなら1分にして、後は個別に議論の方がポスターの良さが活かせると思う。
※	座長を担当したが、ポスターの前に必ず聴衆がいるわけではなく、中途半端な感じになってしまった。座長制を取り入れることに異議はないが、やり方をもう少し工夫した方がよいと思った。
※	座長制の発表が行われる時間が様々で、ポスターの前にいない発表者も多かった。
※	座長制の効果をあまり見ることが出来なかった。
※	今まで誰も来なくて説明の機会がない人にも機会が与えられることになるので決して悪くはなく面白い試みと思った。しかし自分が他の人に説明している途中で座長権限で割り込まれて説明が途中になり、せっかく興味を持ってきてくれた人が去ってってしまったのを見て非常に悲しくなった。あと座長の人に興味を持って聞いてくれるか非常に疑わしく時間制限もあって困惑した。座長は知識に凝り固まった年齢の上の人でなく、アクティブな若手(～助教講師くらい)の方がいいのかもしれない。

質問12. ポスター発表について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	顔写真で本人と名前が知られるのに少し不安がある。
※	座長をしたが、甲乙つけがたいポスター演題ばかりで優秀ポスター賞の選考に苦慮した。賞を授与するのであれば複数の審査員によって選考した方が良いと思った。
※	無料のビールがたいへんよかったです。太っ腹の大会長の英断を支持します。優秀ポスター賞を選ぶのは、大変では？ 力の入ったポスターが多かったのだ。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	そのセッションをたまたま担当した1人の座長によって優秀ポスター賞が決まってしまうのは、如何なものかと思いました。座長の経験の浅い方もおられ、フェアに判定出来るかどうか疑問に感じます。実際に、座長によって、若い人の受賞を優先する人、発表の内容で選ぶ人などなど、選ぶ基準が異なっていたように見受けられました。
※	賞の選考基準がよく分からない。
※	昔のほうが良かった。
※	優秀ポスター賞の存在を事前に知らず、選考方法もよく判らなかつた。誰が、何を基準にして、何%選ばれるのか、など。
※	審査員一人の点でポスター賞が決まるのは問題である。優秀ポスター賞を継続するのであれば、少なくとも複数名が採点する形にする必要があるのではないか。
※	ポスター賞も偏りがあったような・・・
※	ミキサースタイルはよかったかもしれないが、自分的にはコーヒーの無料サービスの方がよかった。
※	優秀賞を出すのは最悪でした。広い分野の多様なポスターを比較し点数をつけるという行為は、学問の王道からそれています。後味の悪いポスターセッションとなりました。
※	優秀ポスター賞システムは良いが、結局少し専門が変わると理解できなかつたりするので座長1人が判断するのは難しいかもしれない。むしろ、参加者全員に一票持たせて要旨を見て一票を投じてもらい上位数十人だけにしぼり複数の座長が数人の優秀ポスター賞を決めるなどアプリの機能を使えばある意味全体から選ばれる感じになり、要旨の内容はさすがでも実際の発表がダメなら座長が判断できるのでそのような感じにすれば座長の負担も減らして公平性もますのではないかと思います。
※	座長を務めました、ポスター賞が座長1名の投票で決まるのは良くないと思います。
※	奇数偶数番での発表の方が、隣に迷惑にならなくて良い。
※	何を基準にした優秀なのかよくわからない。
※	座長ごとにポスター賞を選ぶのは、さすがに多すぎるのではないだろうか。
※	顔写真は賛否があると思うが、就職を考えている若手には有効だと思う。日本人は恥ずかしがるので学会で「推奨」としておけば「推奨されたから」と言って写真を貼るきっかけとなるので推奨しておくのが良いのではないか。
※	ポスター賞の選考基準が公平にできないため、数を減らした方がよいのではないか。やたらとポスター賞や発表賞を出す学会があるが、そうではなく、一定の質を保って欲しい。
※	優秀ポスターを決めるといっても、審査の公平性がとうてい担保できていないとは思えなかつた。中途半端なものを出すべきではないと思う。顔写真の掲示が推奨されていたことを、このアンケートで初めて知ったが、いいアイデアだと思うので、今後もぜひ続けて欲しい。ビールを配っていたようだが、すぐなくなったみたいで、結局ふつうに有料販売しているだけだった。だったら、値段を抑え気味にして全部有料のほうがよっぽどよかった。
※	優れた発表を表彰することは良いと思います。その意味で、「順番に発表させる座長制」は反対ですが、ある程度の鑑識眼のある(と思われる)シニアな人が割り当てられたポスターを見て回り、優れていると思うものを選ぶのは良いと思います。顔写真は意味がよくわかりませんでした。
※	座長と発表者が知り合いの場合等、その座長1名が周囲10演題くらいからポスター賞を選ぶという行為はいろいろと難しいものがあると思います。せめて複数名で選ぶようにしないと、禍根を残しそうな。また、全ポスターを対象にするのではなく、若手中心にポスター賞に立候補してもらい、そこから選ぶ、というような方法はとれないでしょうか。
※	優秀ポスター賞は分子生物学会にはそぐわない。規模が大き過ぎ、分野が非常に幅広い中、どういう基準で選ばれるのか不明である。一部有力研究室の得点稼ぎの場になるだけ。
※	優秀ポスター賞を設定するのであれば、当該分野の(真の)専門家以外のひとを座長に選ぶべきではない(Q11の回答を参照下さい)。
※	優秀ポスター賞はある方が良いが、今回のように座長の一存で決まるのではない方が良い。もう少し公平で、客観的な決め方にして欲しい。また、基本的には、publishされていないデータを評価するものであるべきと思う。
※	優秀ポスター賞受賞者名の掲示が、連絡用の掲示板に小さな文字で書かれたA4の紙切れ1枚とは寂しすぎる。
※	座長としてポスター賞の選定に関わったが、10件程度から1件選ぶのは強く反対する。原理的にも10件程度ではポスターの質の統計的な片寄りが大きく、10件とも対象外のポスターのみのセッションがある一方で、複数優秀なポスターの入ったセッションでは優れているにも関わらず選から漏れる物がでる。出すのであれば、公平性をより重んじた方策を採るべきで、今回の方法は不適切。勿論、それに伴う選者としての責任を負うことになった場合、それを行うに個人としてはやぶさかでは無い。ただし、これを多くの会員が是とする必要がある(それだけ、ポスターを回って判断するのに徹し、かつ、その能力のある人員を確保できるか?)。
※	優秀ポスター賞の設置には賛同するが、研究内容は研究歴の長さによる影響が大きいので、その点を公平に審査するのは難しいのではないか。結果をみると、若手への配慮が感じられたので、うまくいっているのかもしれないが、ポスター賞の審査を希望者だけにすると、

質問12. ポスター発表について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターセッションの始まる前からビールの匂いを漂わせることに抵抗を感じました。また、高校生の口頭発表の横でビールを配っていることに対しても、大人の研究者の中で背伸びをして頑張っている未成年達に、申し訳ない気分になりました。ミキサースタイルが悪いわけではありませんが、時間帯や取扱いスペースなどを再考すべきと思います。
※	優秀ポスター賞の評価基準や説明を明確にすべき。
※	パシフィコはやかましいので声が聞き取りにくい。何らかの音響は必要。
※	優秀ポスター賞を、一人の意見(座長)で決めてよかったのかどうか疑問。個人の趣味が入るし、せめて2-3人で複数選んで、決めたほうが公平だと思う。座長が聞いて回るの、学生だけにして、ポスター賞も学生からだけにするとかにしたらよいかも。あるいは、座長制をなくして、各分野ごとに複数人数のポスター選定委員を指名して、(学生のみから)ポスター賞を選ぶ、とか。
※	ポスターセッション後にフォーラムなどあるにも関わらずビールを配るのはどうかと思った。
※	分野も多様な演題の中から優秀賞をだすことには無理がある。基準が明確にできない。
※	顔写真などの取っていても広い会場のなかから探し出せるわけがないので無意味だ。会場でビールを売るならもっと値段を安くするべき
※	ポスターのLate-breaking abstractsの100番前後の掲示場所が会場一番奥の壁側でしたが、裏側(壁と反対側で他のポスターパネルに面している)にはポスター掲示がなく、まさかその裏にポスターがあるとは思わないような状況だったために通りかかる人すらほとんどいないのが残念だった。
※	ビールの無料配布が中途半端
※	優秀ポスター賞はあってもいいが、該当者が多すぎる。あんなにたくさんの方が受賞する賞には意味がない気がする。
※	公正な指標もないのに、少数(1人?)の審査員が主観のみで研究に優劣をつけるのはおこがましい。審査員が十分いれば意義はあると思うがこの規模の学会には無理だろうし、不要である。
※	顔写真はお好みでよいと思います。優秀ポスター賞は若手には励みになると思うのですが、さらっと掲示されているだけなので、モチベーションとしてはどうか?とも感じました。
※	ポスター発表を行ったが、会場の端の場所での発表自体に不満はなかったのだが、照明が十分でなくとも暗い中での発表となった。隣のポスター発表者などは、iPhoneの明かりで照らしながらポスターを説明していた。きちんとした照度があることを確かめてから会場設営をして欲しい。
※	日本語表記、顔写真無しというポスターが非常に多くデザインのバラつきが大きかった。ポスター発表の形式は推奨よりも規定にするべきである。推奨設定がポスター発表の評価に影響が出るのか否かはっきり明記するべきである。
※	ポスター賞:座長推薦が基準の場合、上述した「座長制」への不満から、価値的とは感じられない。安易な設定は学会の価値を下げるように感じます。写真:発表者が分かりやすくなったとは全く思えず、むしろ印象は良くなかったミキサー:約3時間話し続けた(コアタイム前からポスター前で説明を開始していたため)発表者としては、今回のような参加者向けの配布に加えて、発表者全員にも(ノンアルで)ワンドリンクほどいただけたら非常に助かりました…。
※	優秀ポスターを出すのであれば、受賞者を決める方法・基準を明確にしてほしい。
※	発表しなかったのに、優秀ポスター賞や発表者顔写真提示推奨のことを知らなかった。顔写真が貼られていて、若い人は積極的だと思っていた。あれだけ数が多いと、優秀ポスターを選ぶと言っても大変ではないか?
※	ポスター賞の設置は良いと思うが、座長による偏りがあるのでは。(あまり偏るなら無い方が良い。)
※	発表賞があることを知らない人が多かった(私も知らなかった)。もう少し周知した方が良いかと思う。また、人数が多くて大変だが、webベースでPDFダウンロードなどでも良いので、賞状があったら嬉しい。
※	一般演題からの口頭発表採択が実質なかった分、ポスター賞の設置は学生や若手にとってやる気になったと思うが、やるなら評価ポイントをしっかり決め、複数の審査員による審査を設けるべきと思う。
※	分野分けがもう少しわかりやすいと良い
※	関係ない話をしている人を静かな場所に誘導する、美術館の学芸員のような人が必要。うるさくて発表が聞こえません。ビールの配布もやめた方がよい。酒臭い人がポスターを聞きに来て嫌でした。あと、ビールに並ぶ人の列がじゃま。
※	発表者がつけるリボンほとんどの人が付けておらず、名札も見えないことが多いので、顔写真の掲載は良いと思います。
※	Late-Breaking Abstractにも優秀ポスター賞を設けてほしい
※	顔写真よりポスター内容を見るのが先だし、演者を探すよりも演者から「説明しましょうか?」と話しかけてくるのが先だ。顔写真を見て個人識別するのは意外と難しい。座長もいちいち写真をみて本人確認している様子もなかった。指導教官が不在の演者に代わって説明してくれることもあった。とすると、一体、何のための顔写真掲載なのかがわからない。
※	わざわざ欧米のスタイルなど取り入れることなどせず、「日本のやり方」あるいは「日本発の新しいやり方」を目指してほしい。
※	組織票があるようです。対策が必要と思われます。
※	アルコールの販売はやめてほしい。絡まれそうで怖い。飲んで議論することでもないと思う。
※	一部、ポスター掲示の場所がとても分かりずらく、暗いところがあった。しかもその掲示の列の反対側は何も掲示がないというわけがわからないものであったのが大不満です。その空いたところに掲示させてくれてよかったのではないですか?
※	優秀ポスター賞の設置はよかったと思う。ただ、座長1名による選定という点については、疑問が残る。顔写真は掲示推奨ではなく、掲示可能くらいに留めた方がよいのでは。今回の学会で、顔写真が掲示されたポスターは2割にも満たないのでは?ビールは最高でした!

質問12. ポスター発表について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ビール無料配布によりビール片手にポスターに来る学生を多数拝見し、真剣に研究発表を行おうとしている人間からすると不愉快であった。また特定ポスター前でビール無料配布を行ったため、周辺に多くの人が並び、ポスター発表の邪魔であった。
※	優秀ポスター賞に選ばれるための必要事項等がわからなかった
※	不参加
※	ビールは飲めないで、他のドリンクも希望する。
※	優秀ポスター賞の設置は良いと思うが、選考方法は明確に公表されているのでしょうか？
※	写真掲示は質問等をしたときにとっても便利です。ただ、実際は1割程度しか掲示していませんでした。もう少しやってくれる人が増えるようになると良いと思います。
※	ポスター賞は相変わらず判定基準と発表状況が曖昧で、ポスターより研究内容を評価するならば学会が何らかの賞を与えた上で、当該研究がpublishされた段階で受賞した著者にabstractを書かせ、学会誌かHPに掲載した方が著者の研究内容の周知やモチベーションにも繋がると思われる。ミキサースタイルについては、そもそも上司の居前で発表する若手が飲む訳には行かず、折角の研究者と話し合う機会も相手がほろ酔いでは話にならず、完全に一部の人間の自己満足にしか思えない。顔写真は当該者以外の人立っている場合には混乱しか生じない。
※	顔写真はなぜ必要なのでしょう？日本の会場は、人を縫って進まなければならない狭さなので、ビールサービスしていただいても、飲んでいる間は怖くてポスターの近くには近寄れない。ゆっくり飲みたい方は、ベンチに座って飲むことになりませんが、これはポスターを聞きにいけないことを意味します。このゆったり感がよいなら、次回も賛成致します。
※	優秀ポスター賞の数が多すぎと思った
※	優秀ポスター賞の設置は良かったと思いますが、約10題の発表から1人の座長が1つのポスター賞を選ぶというシステムは良くないと思います。1つの研究室で5題ぐらい連続した発表もあると思いますので、そうなると研究室として選ばれる可能性が高まるのはあまり公平ではないと感じました。代替案として、約30題に3人の座長を担当させ、そこからそれぞれ1題ずつ選ぶというような工夫もできると思います。
※	ポスターの掲示が遅い傾向がありました。当日の朝から掲示している方もある一方、議論時間の開始直前になるまで掲示しない方もかなりありました(ついに掲示されない方も)。何らかの指針が必要かと思います。
※	優秀ポスター賞を受賞してもうれしかったのですが、賞状など無いのでしょうか？受賞もファイルを開かないと気付かず、メールだけでも欲しかったです。
※	ただ、どういふ人にポスター賞を贈るかというのは考えたほうが良い気がしました。PIの人が貰った場合もあったので、ある程度若手を対象にするなどを考えてもよいと感じました。
※	可能ならフリードリンクやおつまみ？を充実させてほしい
※	名札に発表番号を目立つように印字する手もあるのではないかな？
※	ポスターを張る板が硬すぎて、ポスターの掲示に予想以上に時間がかかりました。複数枚の紙に分けてポスターを印刷していったので、ピンを差し込むのが大変で、指が痛くなってしまった。磁石で張り付けるなど、女性でも楽に張り付けられたら助かるなと思います。
※	優秀賞の基準は何ですか？
※	照明が暗くて見にくかった。周囲が騒々しくて説明するには大きな声を出さなくてはいけなく、大変だった。
※	会場が広すぎて間延びしている感じ・移動が大変 その割には個々のブースが混み合っていて見にくい。配置の仕方に工夫がほしい。
※	ビールの提供はとてもよかった
※	ビール提供が不快。
※	ポスターを見にくる際に、特に企業からの参加者は所属を隠して言わず、名札も見えないように隠していることが多い。大学の発表者から警戒され情報が聞き出せないための対策と思われるが、態度が卑怯だ。情報取りのシステムが会社で構築されているようで、決まって発表者からは専門的なことを聞き出す質問者自身は専門外と称し一切何も言わない。討論にならない感じがしている。
※	ポスター賞対象者は、学生と学位取得5年以内の研究者だけで良い。
※	ポスターへの発表者顔写真の掲示は、「してもよい。」にとどめて、本人に任すべきである。
※	今回の座長制ではポスター発表が中途半端な形で行われた感が否めない。発表時間における聴衆の有無や質疑応答の印象も少なからず優秀ポスター賞の選出に影響を与えたと思われ、今回のスタイルで優秀ポスター賞を選定するのは難しかった。
※	中途半端に一部のの人にビールを配布するのなら、無い方が良かった。
※	優秀(?)ポスター賞。優秀(笑)ポスター賞だと思う。世の中やはりコネですね。研究履歴で一番信用できない業績だと思った。

質問13. 年会の特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	市民公開講座はレベルが高くて雰囲気もよくとてもよかった(他の企画はさんかしていないのでわかりません)。
※	参加者は多くはなかったが、2F6「分子生物学の過去と未来—フランス・クリック生誕100年を記念して」は良かった。
※	高校生の発表の場があるのは、大変良いと思う。
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	参加できなかったので評価をしません。
※	今回はリクルートも兼ねての参加のつもりでしたが、手立てが欲しかったです。
※	研究者が抱える・直面する問題を避けた無難な企画でした。
※	過去のジंकピリチオン集会のような奇抜な集まりを数年間隔でお願いします。もちろん毎年では難しいことはわかります。
※	興味をもてるものがありませんでした。就職活動セミナーは本当に困っている人を対象にしていない(今問題なのは若手ではなく、ポストク1万人政策のあおりをうけた40代のはず)ので、的外れではないかと思います。焦点もぼけた感じでした。ヤングサイエンティストという名称から、前世紀の感覚をうけます。若手を啓蒙したいなら他のやり方があるでしょうし、対象もねらいもよくわからないシンポジウムに感じました。
※	時間が無くて参加できなかった。評価できない。
※	ガチ議論の定期開催を強く望みます
※	不参加
※	学会としてあれもこれも盛り沢山の企画を求めて参加しているのではないと思います。本筋の学術発表の場として、研究交流のレベルが充実してこそ参加する喜びがある。その中で、未来を感じさせる高校生発表会は素晴らしい企画だったと思う。
※	重要性を考えると、より早い日程であればなお良かった。
※	直接関係はありませんが、製薬・創薬面談ブースは、出入りが外から丸見えですし、音も漏れそうな構造で、あれで果たしてクローズドの面談ができたのか心配です。
※	高校生参加
※	不参加
※	高校生のポスター発表はとても面白かった
※	高校生の口頭・ポスター発表は、今後も続けた方がよいと思う。ポスター会場の中央に設置されてこともあるが、高校生の発表には新鮮さを感じられた。予算も設備も限られた中で何かを発見しようとする努力と工夫は、大学や研究所で活動している学生や研究者も見習うべきところがある。
※	すいません、学会企画のランチセミナー一つだけしか参加できませんでした。少なくとも十分盛りだくさんで、これ以上しないことが大事かと思います。

質問14. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（要望・その他）

回答者番号	要望・その他記述
※	スポンサーを立てる意味で仕方が無いのかもしれませんが、入り口から入るとポスターではなく企業展示しか見えないことに違和感を感じました。
※	展示場のマップがあったのかもしれないが、どこにあるのか気がつかず、行きたかった企業のブースにたどりつけなかった。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	不景気のおおりにとは思うが、少なくて寂しい。
※	〇〇〇などにお話伺いたかったが、折られなかったのが驚いた。参加企業がもう少し揃っていただくようお願いいただいた方がよいと思う。
※	企業展示は年々規模が小さくなっている気がする
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	海外の学会で企業ブースとポスターブースが交互にレイアウトされていることがある。またIDをスキャンすると登録情報が渡されて連絡を取ることができた。また、研究者に対し「企業より支援を受けているので積極的に企業ブースに立ち寄り情報交換してください」とアナウンスしていた。補助金が減っている以上企業からの支援は必須と思われ、企業にとってメリットのある学会を考へても良いのかもしれないと思った。
※	今年は例年に増して、企業の展示ブースでのサンプルの配布が減ったように思う。残念。
※	今回〇〇〇さんが参戦せず、〇〇〇さんの不戦勝に終わってしまい残念です。神戸、期待していますとお伝えください。
※	展示会場の地図(企業等の展示ブースの場所がわかるもの)をプログラム集やWEBなどで示して欲しかった。展示ブースを探すのに手間が掛かった。
※	バイオテクノロジーセミナーでの昼食無料配布は止めるべきでは?聞きたいものがあっても参加できない
※	昼食時ではなく、以前のように午後、または夕方の時間にしていきたい。これは弁当目当てで来る人を防ぎ、本当に聞きたいセミナーを開いていただきたいことによります。以前、テクニカルセミナーの講師を引き受けたことがありますが、その際には最終日の午後ではありましたが、一応そこそこ人が集まりました。必要な情報を提供できれば、弁当がなくても人が集まると思いますが、食べた直後に寝ている人を見ずに済みます。時間帯の変更が無理であれば、弁当の有料化も検討してください。
※	明らかに座席数が少なすぎるだろう。分子生物学会周辺の経済状況の悪さを感じた。
※	事前WEB登録・抽選システムは良かったです。無意味に取れるかも分からないチケット為に早朝に行く必要がなくなりました。また、参加票と一緒に抽選で当たったセミナーのチケットが付いていたのは感動しました。一点いただけなかったのは、企業によっては自前の参加票(メール)の印刷・提出を義務づけたりと、勝手にルールを作っていた点です。
※	バイオテクノロジーセミナーは大変ためになる形式でなされたので良かったと思う(企業よりも研究者主導の点において)。展示会の方は年々、ブースの縮小化、高額機器、試薬類展示への偏重化、参加企業の現象が感じ取れる。経済的な要素が反映されたことだとは思うが、もう少し華やかさと基本性を考え直した方がよいように思えた。また中小企業のブースで、何をやっている会社なのかのアピールが少なかったり、担当者不在の場面も見受けられた。学会の場でこそ生の製品に触れて話が直接聞ける絶好の機会なので、研究者のためにも是非理もれないようにアピールできるよう、学会本部の方からの補助もお願いしたい。
※	年々活気が悪くなっていますが、今年は特に活気がありませんでした。
※	セミナー数が少ない。事前整理券のウェブ配布が少ない。
※	予約してもランチョンに参加できないのでは意味がない。
※	チケットを配る時間が早かったため、希望のセミナーのチケットが受け取れなかった
※	1Fでの引き換え券無しで、名札についた券で入場(お弁当も受け取り)している人々を多く見かけた。その近くでは、真面目にキャンセル待ちの列に並んでいる方々が多くいらっしや、とても不愉快に感じた。セミナー開催者側(お弁当を配る方)は、チェックを甘くせず、厳格に対応すべき。
※	不景気のため数が少ないように感じた

質問15. 本年会の規模について（その他）

回答者番号	その他記述
※	大きすぎるけれど、活発なので良かった。無理に小さくする必要はないと思います。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	人数自体は強制的に減らせるものではないので仕方ないが、横浜の会場は部屋が小さすぎるものがある。全然入ることができず(立ち見すらできず)、聞きたいシンポジウムが聞けなかった。
※	もっと集めて異分野他分野の話が聞けるようにしてほしい
※	例年より日数も少なかったですが、やはり大きいです。ですが、世の中にはいろいろな研究があって、たくさんの人が研究をしているんだということを大学院生が知る機会にはなっています。
※	規模が大きくなることは仕方がない。しかし、ゲノムプロジェクトの開始以降の長い期間で見ると、何かと広く浅くという印象がなかなか拭えない大会になっているような気がする。
※	大きすぎる気もするが、このようなお祭りのな学会があっても良い。
※	???
※	分子生物学会はとにかく多種多様な人に会うのが目的なので巨大会として存在していて欲しい。
※	質が保たれていれば数は多くてもよい。学生の発表練習や業績を増やすために利用しないよう推奨して欲しい。
※	やや減った？1万人規模を目指し、それを継続すべき。
※	小さい
※	特になし
※	年々発表数が減少している印象。分野に偏りができつつある。自分の周囲も分子生物学会を退会する人がポロポロ出てきている。特にビッグサイエンスしかもてはやさないのだとしたら、一般の多くの研究者にとって、自分の研究に直接結びつけることができる情報収集の場、発表の場としての魅力はなくなる。もし可能であれば退会者の人たちに
※	生化学会との合同開催を重ねて、数年以内に2つの学会を合併してほしい。同系統の大きな学会を一年に二回開催しても、両方に出張することは不可能である。
※	実際にそれだけの人があるので大きすぎると言ってもしかたない。しかし学生の立場に立って考えるとここまで大きな規模でポスター1枚でどれほどの人が自分の研究に注目してくれるだろうと思うだろうし、実際に人が来なかった時にモチベーションを失ってしまうかもしれない。横浜は神戸と比べてもポスター会場が口演の会場から離れているので人が孤立しやすいと思う。
※	学部生の無料化はやめたほうがよい。代わりに修士課程の学生を無料化してはどうか。学部生ではただの見学にすぎない。修士の学生なら、もっと演題を批判的に見ることができると思う。
※	若い方が減っているように感じられ、分子生物学の将来が危ぶまれました。
※	シンポジウム会場が番号が高いほど小さくなってました。もちろん興味がない研究分野だったかも知れませんが狭すぎてシンポジウム間暑くて集中できなかった。
※	不参加のため不明
※	演題の数が多く、興味のあるものを全て見るできない。口頭発表のスライドを後日公開などできないか検討してほしい。
※	大きすぎるというコメントが多かったら小さくするつもりなのか？小さくできるのか？大きい学会は大きい学会としての役割があると思うので、適当かどうかかわからないが、このままいけばいいと思う。
※	何を主たるテーマと考えるか、によって適切な規模は違う
※	生化学会と合体してもっと大規模になるのが良いと思う。
※	大きな学会であることでいろいろなパワーが生じる。大きいことが問題ではなく、大きさを活かしているかどうか問題。
※	不参加
※	年々、大きな学会の割に専門的中身が薄くなっている印象を持っていたが、3日間に凝縮されてとても良かった。前述したように、シンポジウム、ワークショップの数が多すぎて重複する内容も多いのはプログラム担当の問題と思う。それは長年抱えている課題でもあるので、経費とのバランスで今後も検討して欲しい。
※	ポスター会場は配置が悪過ぎる。学会誌表紙展示は会場外の廊下で十分であり、その分企業展示のブースの間隔を広げたり、ポスター間の移動距離を減らすべきであった。また、高校生の参加と学部生無料の影響かやたら人が多く、3日目午後のシンポジウムでは至る所で立ち見が出ており、会場配置が適切ではなかった。
※	少し縮小傾向にあると感じたがその分まとまってきたと感じた。
※	そろそろ大きすぎるのかもしれない。同じ業界にいるはずなのに目の前でそろそろ帰る人が全く知らない人だらけだから、なぜか参加した後すごくむなしくなる。

質問16. 本年の開催形式(単独開催)について (その他)

回答者番号	その他記述
※	今年度は生化学会と別開催であったため、参加者も生化学会メインの研究者の参加は少ない感じが否めなかった。生化学会も重視している研究者には、発表した時のディスカッションの盛り上がりなどを含め、やはり物足りない感じがした。
※	学生の学会参加費の負担が年々重くなってきています。合同大会など、数が減るのもいいかなと。
※	今回は非常にいい年会だったと思いますが、「単独開催だからよかった」のではなく、「単独開催だったけれど、よかった」という印象です。今後はできるだけ合同開催を推進していただきたいです。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	神戸であれ以上の規模で学会開催は慎むべきだと思う。神戸:単独横浜:単独or合同の方が良いと思う。
※	Q14と関連して参加する法人や研究者が集まりやすい方がありがたい。
※	毎年合同でも良い
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	ミニシンポジウムに偏りがあると思ったので単独より生化学会との合同大会の方が面白かった印象。
※	生命科学系の学会と緩やかな共同開催にして、それぞれの時期をずらし、会費も別にできるとよい。遠方からだと、複数回の出張旅費が大変なので、交通の便のよい場所でまとめて開催できれば、学生旅費も節約できる。
※	生化学会との合同大会が良い。
※	生化学会と一緒にやった方が良くと思います。
※	単独開催である程度絞った方がよい。
※	聞きたいシンポジウムが重なる傾向にあるため、3~4回/日(2時間)という組み方ではどうでしょうか。
※	単独であることに意味があると思う。合同開催するくらいなら生化学会と合併してしまえばよい。合同のメリットがわからない。そもそもは分子生物学分野が新規にでき、生化学会から独立したはずでは。結局分子生物学がどの分野にも必要な学問になってきたから合同というのなら、再度合併する方が良いのではないか。他の学会と日程がかぶらないようにすれば色んな学会に参加できるのではないかと？まず、合同形式にする意味を教えてください。金銭的な問題か？
※	合同開催でもよい
※	生化学会と分子生物学会の特徴を分けて単独開催されるのが最も良いと思う。現状では、合同でも大差ない。
※	次問にもあるように、生化学会との合同開催が良い。今回は生化学会に出られているような先生方が参加されていないため、シンポジウムなどでも盛り上がり欠ける感じがした。
※	特になし
※	生化学会との合同開催がよかった。
※	生化学会と一緒にするべきだと思います。一部の大学・研究室を除き、多くの方が研究・教育以外の雑務に忙殺されています。とても、学会参加を複数回捻出できる財政的・時間的な余裕がある人は多くないだろうと思います。その意味で、歴史がある学会であり、幅広い分野をカバーしている両学会が一つになれば、助かる方は多いのではないのでしょうか？
※	自分の分野に関連してか、昨年のほうが得るものが多かったように感じた。
※	生化学会との合同がよい。
※	生化学会との共催はあまりにも規模が大きすぎて単なるお祭りになる。
※	規模を考えるとちょうどよいと思いますが、生化学会と内容が重複することもあり、両方参加するのはなかなか困難。
※	初参加なので比較ができませんが、これで生化学会と合同になると、聞けない、見られない発表が増えていくのではと思いました。どれぐらい両学会の会員が重複しているのかわかりませんが。
※	去年は生化学会との合同開催のため、人も多くより多くの議論を広げることができ、興味深い発表もたくさんあった。去年の方が充実した学会だったと感じたので、合同大会も良いのでは。
※	分子生物学会/生化学会など実験手段のイメージが先攻し、両者の境がなくなりつつある現在、統合していくべきと考える。
※	生化学会との合同開催を望みます。
※	生化学会と合同にならなかった事で、分子生物学会らしい良いテーマがそろっていました。来年また合同になりますが、生化学会との合同開催は全く意味がないと思います。生化学会の規模が縮小し、単独で大きな会場で学会が開けないため、短に分子生物学会が財布として使われているのでは？
※	生化学会との合同が良い
※	例年、MBSJとBMBの違いが、あまり感じ取れない。
※	平日開催は、一般演題参加では難しくなってきました。所属大学の担当授業により。
※	どちらでもよいと思う。単独と共催が年によって入れかわるのがよい。
※	政治的もんだいはともかく、毎年生化学会と一緒にこなしてもよいとおもう。
※	どちらでも良い。
※	不参加
※	合同でも似た内容になるはず。3日間というのが良かった。
※	生化学会などと共催がよい。複数学会への参加が時間的に負担ですし、一回の参加で済むほうがよい。
※	生化学会との合同開催が望ましい。両方参加するのは経費の面からも時間の面からも困難。
※	良い悪いというより、開催時期と形式が安定しないのでややこしい。例えば、生化学会との合同による大型大会を向う10年くらい12月頭で固定化させて、その半年ほど前に小~中規模の個別研究会の合同大会の様な物を行って、発表の機会と東西地域の補完を行うなど柔軟かつ末端の研究者に負担の少ない体制は取れないものか。
※	合同開催では、様々な知識が得られる一方、規模が大きすぎて把握しきれないため、単独開催はありがたかった。可能ならば、通勤・通学時間と重ならないような時間に開始してほしい。

質問16. 本年の開催形式(単独開催)について (その他)

回答者 番号	その他記述
※	口頭発表に採用された場合にはポスター発表は免除してほしい。
※	生化学会と合同大会にして欲しい
※	期間が短くとも参加しやすかった。
※	日本生化学会とのコラボが良い。
※	生化学会と合同で開催すべき
※	合同開催に良い面も多いので、単独・合同交互開催は良い着地点ではないか。

質問17. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	生化学会、細胞生物学会、発生生物学会、免疫学会等々たくさんあるとは思いますが、なんせ先方のいこうもあるでしょうからねえ。
※	発生生物学会、細胞生物学会、がん学会。
※	会期は3日以内で開催するのが良い。
※	生物工学会
※	日本エピジェネティクス研究会、情報系学会、RNA学会
※	Q4で挙げた学会
※	生化学会、発生生物学会、細胞生物学会、組織培養学会、生物物理学会、他には上記設問で重複所属者の多い学会や研究会。
※	生化学会以外の学会との合同開催はすべきではない。
※	日本癌学会
※	日本進化学会
※	細胞生物学会、神経科学会、神経化学会、遺伝学会、生化学会、生理学会。あまり相手側の規模は考えなくていいと思います。毎年基本的にどこかと共同開催することを基本とすればいいのでは？とにかく学会が多すぎます。
※	現実的ではないと思いますが、日本医学会や日本薬学会。以前に比べて、医療や疾患治療、創薬などを目的に進められている研究が大幅に増えているが、実際とはかけ離れている感がある発表も見うけられます。たまには医療や創薬を身近に感じられる空間があってもよいのではないのでしょうか。
※	日本細胞生物学会日本発生生物学会
※	ただ合同開催ではなく、例えばメカノバイオロジーをテーマにして生物物理学会と共催とか、その都度何かテーマを決めてくつくのはありかも。
※	日本癌学会・日本免疫学会・日本エピジェネティクス学会など。分生が強い基礎的な領域と、それを活用して高次元を解明する学会との開催。特に合同開催の必要は無いが、合同シンポジウムを企画しても良いと思う。分生らしく、ある学会の特定領域に限定した企画として、基礎と応用、基礎と臨床などで、深い議論を目的としてはどうか？ そこから新しいアイデアや実験手技の転用・活用、研究の方向性などの芽が出ると面白い。
※	分生のような巨大会はさらに巨大になって、無駄な学会の数を減らして欲しい。研究者の意見の集約もしやすく、発言力も持ちやすくなる
※	CSHLアジアとの共同開催がよい
※	分子生物学とか生化学とかの学問の括りが意味をなさなくなってきたので、細胞生物学会も加えて、生命科学全般の学会にしては如何でしょうか？アジア最大の生命科学系学会となれば、海外からの参加者も増えるのではないのでしょうか。半分を日本語のセッション、もう半分を英語のセッションに。
※	日本細胞生物学会、日本神経科学会、日本発生生物学会
※	今回のシンポジウムで特にテーマとして多かった、日本癌学会や再生医療、幹細胞などの学会。
※	どちらでもよい。細胞生物学会やバイオインフォ学会もあり？
※	細胞生物学会・発生生物学会
※	「学会」という括りよりも、その中で行われている「研究会」「部会」の様な物の方が外部からは解り難く、意見交換の場が失われている様に感じる。分生の会員を兼ねてる他の学会役員の先生を招いて、共通分野の研究者に疑問点を打診する宣伝目的のシンポジウムを設けても良いかもしれない。
※	日本細胞生物学会日本ミトコンドリア学会日本セルデス学会日本がん代謝標的治療学会日本基礎老化学会等
※	特定の学会に限らず、どこの学会との合同開催の選択肢があつてよいが、「分子生物学会と生化学会とはいつも合同開催するのが至極当然」との考え方を押し付けられるとすれば、うんざり。分子生物学会の会員であつて、生化学会の会員ではない人たち(分子生物学会の会員の7割?)に迷惑ではないか。分子生物学会と生化学会とは合同開催に反対することが、日本のライフサイエンスの発展を妨げているかのような言動には、ドン引きする。少子化の現状と将来を見据えるなら、学会の「合体」を議論した方が建設的かもしれない。
※	細胞生物学会、生物物理学会、ほか、基礎研究寄りである程度の規模のある学会なら可能ではないか。

質問17. 今後の年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	生化学会と両方とも行くのは困難です。最近では生化学会を優先していましたが、久しぶりに分子生物学会に出席し、よさを再認識しました。ただ、これからは生命科学に関係する基礎の学会として、合同開催してほしいです。以前は「規模が大きすぎる」という声もあったようですが、そんな人数が集まっているうちに、今後のことも考えて一緒にするべき。
※	来年に企画されているという噂の、多くの学会との合同開催、意味不明です。もうちょっと学会の本来の意義を年会長は理解すべき。学会はお祭りではない。高い参加費を払ってお祭りに参加するほど暇ではない。
※	合同学会では興味のあるセッションが重複し、参加できるセッションが限定されるので反対である。単独開催でも重複しているが……
※	大会の絶対数は少なくても良いです
※	経費と事後処理が適切におこなわれるか……。
※	生化学以外でもとにかく合同開催したいのなら、分生に参加した人にはAの学会の参加費を3割引、とかにしてそれぞれ単独開催すれば、どちらの学会にも参加する人が増えるのでは？(合同したい理由がわからないので、これで解決するのかわかりませんが)
※	分子生物学会と生化学会そのものが早く一つの学会にまとまるべきである。
※	単独開催でも、合同開催でもよい。合同開催のほうが幅が広がってよい。
※	生化学会と分子生物学会の特徴を分けて単独開催されるのが最も良いと思う。現状では、合同でも大差ない。
※	次年度は多数の学会が集う形だが、日本分子生物学会程度の規模・参加研究者の広がりを持つ学会であるからこそ、そうした活動の中核となるべきで、ことさら単独開催に固執する必要は無い。一般発表や通常のシンポジウムは基本的に合同開催で行い、もし、独自性を出したい場合には、年度毎に絞った内容に関しての規模の小さい分科会シンポジウムコンプレックスなどを企画してはどうか？
※	合同開催のメリットはありますが、遠方からの参加者にしてみれば、宿泊先の確保や会場移動など、開催規模が大きくなることでも不便さも増します。現行の規模が適切かと思えます。
※	数年に一回の合同開催が良い。
※	合同開催で知らない分野に触れることも刺激になるが、単独開催で分子生物の知識を深めることも必要と思うので、ここ数年の、2~3年に一回合同、というペースがちょうど良いと思う。
※	生化学会との合同開催を重ねて、数年のうちに2つの学会を合併してほしい。同系統の大きな学会を一年に二回開催しても、両方に出張することは不可能である。
※	分子生物学会だけでも規模が大きいため、単独開催が良いが、生化学会とほぼ内容的にも重なるので、合同開催は避けられないかと思う。他には、細胞生物学会、発生学会、RNA学会などは内容的に一緒にできそうであるが、これらの学会も、合同開催により小規模であることの良さがなくなってしまうのは避けたい。と考えると、やはり生化学会との合同開催が一番現実的であると思う。
※	他の学会との共同開催は規模がさらに大きくなるが、結局は派閥で集まってしまい、共同開催のメリットを生かせない可能性があります。小さい規模の学会から見た場合には、分子生物学会と共同開催することで、メーカー展示が大規模になるなど情報収集ではメリットがあります。どこまで学会間で密な連携が取れるかだと思います。
※	単独と生化学会との合同を隔年で行うのが良い
※	他学会との合同大会は良いと思うが、あまり頻度は高くなくて良いと思う。合同大会は、3-5年に1回ぐらいが良いのでは。
※	ポスター座長として呼ばれていなかったら今回は参加していなかったらう。
※	生化学とは本質的に分野が異なるので、合同開催はおかしいと思います。政治的にどうしてもというのであれば、同一会場、会期前半が生化学会・後半が分生とするのはどうでしょうか？
※	来年のConBio2017がBMBと明らかに毛色の違う画期的な企画であることを期待する。
※	会場内で無料のビール目当てに長蛇の列が来ているのも酷いと思ったが、高校生のポスターの前でビールを配るのは如何なものかと思った。やるなら会場の端等、なるべく目立たない様にして欲しかった。
※	生化学会と共同だと規模が大きくなりすぎて疲れます。また、神戸の会場だと移動時間がかかるので更に疲れます。今回の横浜は部屋の移動がとても楽で良かったです。
※	たまには合同開催も悪くないのでは？
※	これ以上規模が大きくなるのは参加しづらい面がありますが、合同にすることで日程を長くしてシンポジウム時間を分散できるのであればそれでも良いと思います。
※	来年度、合同開催(多くは共催?)であるため、他の学会との合同開催の形式を確認する事ができるため、楽しみにしています。
※	横浜と神戸以外の場所でも開催してほしい。
※	単独、生化学会合同、どちらでも良いと思うが、地方在住なので1回の出張でたくさん演題を見られる合同開始のほうがありがたい。
※	合同にすると人が多くなり大変。特に神戸で開催されると、宿泊場所・ポータライナーともに混雑して困る。(神戸の会場へのアクセス方法はポータライナーしかないため)
※	合同のほうが生化学会の知人に会えるメリットがあるが、巨大になり会期が長くなるなどデメリットがある。通常単独で数年に1回合同が良い。
※	今回の規模でちょうどよい。これ以上参加者を増やしても、参加者にとっては時間が浪費され、離れた会場間の移動などで疲れるだけで、メリットが感じられない。
※	分子生物学会と生化学会両方に年会費を払うお金がないので生化学会を退会しました。ぜひ合同でやってほしいですが、規模が大きくなりすぎるので今のように単独でも良いです。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	年会全般として、シンポジウムの編成などでは、研究領域が狭いという感じがしたが、ある意味、より専門的でマニアックな分子生物学会らしい雰囲気は、ここ数年の学会よりは出ていたと思う。単独開催なので難しかったのかもしれないが、逆に単独開催で、生化学会との合同年会のアカデミックさを出すというのも良かったかも知れない。
※	最終日のポスター発表は午後早めか午前にした方が良い
※	今回はシンポジウムも主催させていただき、ポスター発表した学生も休みなしで説明したようで、充実しておりました。
※	朝8:00時からの特別講演は、著名な方の講演ではあったが、早すぎると感じた。
※	今回は3日間でコンパクトにまとまっていたのが良かったです。18時までにはメインのプログラムが終わるのも良かったと思います。
※	人数・演題が多いのはもはや仕方の無いこととして慣れた感がある。その中で、口頭採択演題を増やすなど、若手研究者にとって自身の研究をアピールするチャンスをより多く取り入れて欲しい。採択演題を取らないワークショップがあるなど、やや疑問も残った(もちろんオーガナイザーの先生方の考え方も理解できているつもりではあるが)。やはり分生年会のような大きな舞台で演題を採択されることは研究を行う上で大きなモチベーションになると思うし、私は少なくともそのような気持ちでやっています。この感覚をより下の世代の学生・ポスドクなどに伝えるためには、分会運営サイドとしても、口頭採択に対し、可能な枠で重点を置いて欲しい。
※	内容の薄い口演発表が目立つ。オーガナイザーのお友達だけを採択するからそうなる。
※	国際化などと言うならば、海外の学会のようにポスターなど撮影OKにするべきだ。発表は下手くそな英語で、英語質疑も聞いてもらえない。そこまでして国際化にこだわるなら、海外のようにポスター撮影OKで、かつ、印刷版の配布を推奨するなどしてください。撮影禁止などのルールは日本式で、発表形式のみ英語にこだわる姿勢は、非常に滑稽です。
※	どのシンポジウムも満員で途中から入りにくい状況であった。
※	今回だけではなくのですが部屋が狭すぎて座ることができない会場が多くありました。現在使われる神戸と横浜の会場はキャパシティ不足だと思います。米国の学会のように参加者にどのセッションに興味があるかを事前に調査して部屋割りをすることもひとつの方法だとも思います。
※	昨年よりずっと良かった。シンポジウム、ワークショップに一般演題を採用する必要はないと思う。(招待講演者と一般演題の発表クオリティにかなりの差があった)
※	フォーラムに面白そうな企画がたくさんあったのですが、気がつかず上、時間が遅いこともあり、参加せず帰ってしまいました。残念です。もう少し早い時間にできないでしょうか。また、もっと宣伝して頂けたらと思います。
※	口頭発表のセッションをもっと増やして機会がほしい
※	CRISPRに関心があり聴きに行ったが、聴衆が多く、狭い会場だったので、多少参加者が多いことが予測される演題は広い会場を有って欲しいと思った(難しいと思う)。
※	一部の有名な先生やラボが大きな顔をするよりももっと小さなラボや萌芽的なテーマに焦点を当てるべき。
※	シンポジウム会場が小さく、入りきれないことが多かった。シンポジウム演題もやや多すぎと感じた。似た演題が同じ時間にあり、1つを選ばざるをえなかった。もう少し厳選して、大きな会場を使っていたきたい。アプリは今回初めて使用したが、使いやすかったと思う。
※	口頭発表会場が狭くて座れないことが多いと思う。
※	ビールは大変よかったです
※	高校生の発表の場が設けられているのは大変良かったと思う。高校の実態を考えると、やはり土日祝日での発表でないと難しい面があるので、そのような形にならないだろうか。また、年会以外でもどんどん高校生発表の場が設けられると良いと感じる。
※	医学系学会に比して会費の格安感が失われつつあるので、検討して欲しい。
※	神戸はポートライナーしか無いので不便。合同開催など参加者規模が多くなる時は、パシフィコの方が望ましい。パシフィコの値上げの問題もあるでしょうが。ポスター終了時間が18:00と例年と比べて早めは良かった。気が早いですが、今後のConBioは多くの協賛ではなく、多くの共催にしてほしい。
※	毎年、学生の発表に関して不満(質の低さ等)を書いている人がいますが、そういう人はもっと小さなシンポジウムに参加すれば良いと思います。
※	全部はムリかと思いますが発表の動画配信が後でも再視聴できるといいですね。費用と手間がかかりすぎるのならしくともいいですが。
※	研究室内で起きるハラスメントを相談できる第三者機関を作って欲しい。大学の教授などで構成されたものではなく、法律家によるものを望みます。大学内にあるハラスメントの相談部署は大学内の教員で構成されていて、相談などできない。
※	アプリの使用に挑戦したり多様なサテライトセッションを設定したり日本の科学をリードする学会だと思ふ。しかし日数が限られるため早朝、遅い時間のプログラムがあり、全てをこなすことは不可能なうえ、介護・育児で日中しか参加できない場合は絶望的だった。YouTubeで中継できないものだろうか？(満員になってしまうセッションについても中継があると嬉しい)
※	昼休み時間を長めにとってもらえると、研究打ち合わせがしやすい。これからも朝や夜に、今回のように一般講演やシンポジウムとは指向の異なるセッションを入れるなど、1日で多くの情報が得られるようにして欲しい。時間も旅費も節約できる。
※	ポスターセッションのディスカッションが活発に行われていてとてもよかった。
※	いろいろと新しい試みに取り組まれていて、すべてがよかった訳ではないにしても、委員のみなさまは本当にお疲れさまでした。感謝いたします。ただ若手の減少は今年もひしひしと感じました。生化学会が一足先に衰退モードに入っているが、分子生物学会もやや遅れて同じ状況になっていくであろうことを実感した。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	Q11にも書きましたが座長制はやめるべきだと思います。ただ、シニアな人が(強制的にでも)ポスターを見て回ってディスカッションを行い、優秀ポスターを選出するというのは良いことだと思います。ポスター会場を見ても、いわゆるあまり偉い先生を見かけることはありませんが、それくらい勤労奉仕してくださっても良いのではないのでしょうか？何のための学会なのかと思います。
※	夜間のフォーラムに出ましたが、「一部だけ」食事が出るセッションというのはどうなのかと思う。理事会企画に食事が出て、一般申し込み企画に出なかったら、やっぱり理事会企画行きたいですものね。遅い時間ですし、フォーラム参加者全員に(食事とまではいかなくとも)ドリンクのサービスがあるならまだしも、食事のあるセッションに人が偏るとなると、ただでも集客が難しい時間ですし、来年以降一般企画を出しにくい。寂しい。いつからフォーラムはランチョンセミナーみたいな時間買収性変わったのか。
※	生化学会以外の学会との合同開催はすべきではない。
※	今回はシンポジウムもポスターも質の高い発表が多かったように感じます。そのため、同時間に回り切れず聞けなかった発表が多数あり残念に感じました。シンポジウムを3~4回/日(2時間)としたり、一日開催日を増やすなどの対応が必要なのではないかと思いました。
※	横浜はポスター会場が1か所なので、色んな分野のポスターをざっと見る事ができてとても良いと思った。神戸だと会場が何カ所にもわかれてしまい、結局自分と関係がないと思う分野には時間が足りなくて見に行けない。
※	現在の分子生物学会の規模は大きすぎるところがあるので、生化学会や農芸化学会の様な支部大会の開催も学生さんに口頭発表経験を積むことが出来る場としてあっても良いかもしれない。また、セッションについては、研究材料ごとにまとめる、例えば植物の日・酵母の日、とかが有ると最近分子生物学会に参加していない方でも参加しやすいと思う。
※	優秀ポスターに選ばれた者ですが、当人への通知をせめてして欲しかった。他人に言われなかったら、気づいていなかったかも。
※	学会費・参加費を値下げする努力をして欲しい。無駄を省き、企業からの協賛金をより集める努力をお願いしたい。生命科学に興味を持つ高校生の参加をもっと増やせれば良いと思う。
※	ランチョンセミナーを廃止して、大会参加費を下げるべきである(ランチョンセミナーを今後も続けるのであれば、会場で実費を徴収すればよいと思う)。
※	キャリアパス企画「これでいいのか大学院教育」がひどかった。1. パネラーが勉強不足。「副指導教員について知らない」とかあり得ない。「文科省に副指導教員制度を推奨するようお願いする」と言っているパネラーがいたが、文科省は以前からそう指導してる。そんなことも知らない人間をパネラーに選ぶなんておかしい。2. 「学振研究員の数を増やす」のは重要だが、学生が不満に思っていることはそれではない。大学院教育自体についてももっと真剣に議論すべき。3. 携帯アンケートは有意義だが設問や選択肢の仕方がおかしい。「大学院はどうあるべきか」の解答選択肢に「研究だけ出来れば良い」と「広く役立つ資質を身につける教育をする」があったが、この文章で前者を選ぶわけがない。誘導質問なのか？4. 司会者が個人体験を話過ぎな上、「イヤなら変われば良い」「海外の大学院に行けば良い」と言うことにひどく落胆した。「日本の大学院教育を改善する」には何が問題で、何を改善すべきなのか、を議論する場のはずである。次回は「司会者とパネラーは充分勉強し、問題意識を明確にしてから登壇する」ことを強く望む。
※	夜のセッションが多くなってうれしいのですが、朝や夜などの特徴(というか参加者の意識)を図って企画を立案されたほうがよろしいのではと思います。昼は発表の聴講なので変わりようがないですが、朝も夜も同じようでは、疲れてしまいそうです。朝は意識をたかめる広くて大きい演題、今日も一日がんばられるようなテーマを話してもらいたい。夜は深く、重みのあるような研究テーマをじっくり聞かせてもらいたいです…。開催前に、古今東西、誰の話が聞きたいかアンケートとって見たらいかがでしょうか？あと、ビールはなくてもいいです。
※	大学で高大連携活動をしているが、ポスター発表と高校生発表の時間が重なり、高校生発表を十分に見られなかったのが残念。ネットがつながりにくかった。
※	生化学会との年会合同開催は、完全に分生と一緒にするのではなく、あくまで同時同所の開催形式でやってほしい。また分生だけでも会場に入りきれず、外のモニターで立ち見のケースが目立ったため、生化学との合同の場合は会場設営を工夫してほしい。
※	ポスター貼り付けの時間厳守を徹底してもらいたい。発表数が多いので午前中の規定の時間に貼り付けてもらわねば全てを見て回ることができない。以前もアンケートでお願いしたが、さらにマナーが悪化している。このまま悪化していくのであればペナルティーを伴う制度を検討してほしい。
※	ビールが飲めたのはよかった。今後も続けてほしい
※	幅広いテーマでのシンポジウムと、ポスター発表で議論中心とした学会の方針は分子生物学会の本来の姿勢として評価できる。
※	3日間に全てが詰まっているのは日程的にやや厳しい気がした。シンポジウムが多すぎ。プレナリーモーニングセミナーは時間が早すぎ。招待演者に対しても失礼では？もっと良い時間帯に設定すべきでは？
※	生化学会との合同開催を重ねて、数年後には2つの学会を合併してほしい。同系統の大きな学会を一年に二回開催しても、両方に出張することは不可能である。年会費の負担も、大会参加費も、旅費も、手間も2倍になり、無駄とも言えるし、負担である。
※	口頭発表のホテル会場の5階に、母子休憩室があり、この配慮は良かった。またこの部屋に会場のモニターもあるとありがたい。しばらく様子を見たが、あまり利用はされて無いうのだが、より利用を促されたら良さそう。また、会場の外の廊下のすみで、イスラム教徒らしい2人の女性が、ビニールを広げて座り、祈りをするのを見かけたが、「母子休憩室」での利用も出来るようにしたら良いのでは？、またこの「母子休憩室」を、シニアの休憩室としても利用出来るよう、「母子、シニア休憩室」とされたらありがたい。
※	シンポジウムが立ち見になることが多く、落ち着いて発表を聞く機会が少なかった。事前に参加人数など把握して、座席数に余裕を持たせることができないか検討してほしい。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	他の学会も横浜なので、神戸・横浜以外の開催に期待。人数は僻地に飛べば自ずと少なくなるので札幌や福岡、新潟など比較的大きな箱があるところへ。
※	Late-breaking abstractsで登録したのですが、ポスター掲示の際、掲示板の照明が当たる側が空いているにも関わらず、その裏側の非常に暗くて人もほとんど通らない場所にしか掲示出来なかったことに対して強い不満を覚えました。そこにしかポスター掲示が出来なかった理由は何かあったのでしょうか？
※	シンポジウムの会場に入れられないものが多く、聞きたい講演がほとんど聞けなかったのであまり面白くなかった。
※	本アンケートの所要時間を配信メールに記してもらえると助かるし、回答数も増えるのではないかと。と思う。
※	会場がコンパクトなのは良かった。
※	海外(欧米)からのシンポジストもいいが、海外(アジア圏)からの一般参加者をもっと増やして、日本の分子生物学会ではなく、アジアの分子生物学会という立ち位置を築いていければいいと思う。
※	今回、早くに発表が終わったのがよかったですと思います。
※	参加人数が多いにもかかわらず、よく練れたプログラムだと思います。平日3日にしたのも良いと思います。
※	大学の実習にて1日分しか参加できずに残念。以前のように12月中旬にだいたいのがだ。シンポジウムのオーガナイザーなど、分子生物学会ではとてもいい経験をさせて頂きありがたく思います。
※	以前から知るものにとって、若々しい学会というよりも、お祭りのようになにか地に足がついていない感じがする。演題の選別は難しいがあえて行ってはどうかー発表することにステータスがでるし励みにもなる。ワークショップはこんなに必要だろうか(いつも同じグループや人がいる気がする)。その時間を、若手の口頭発表練習の機会にできないか。
※	ポスター会場が暗すぎる。あんなに暗いとポスターが見えない。規模のわりには3日間開催は短すぎる。日程が窮屈である。聴衆と会場のサイズがマッチしていないところが多かった。前年度の人気分野などを考慮して部屋のサイズを決めるべき。
※	会場の大小と聴衆の人数があっていないことがままあった。会場から溢れて外で中継するのもいいが、それではウェブセミナーと何が違うかわからない。
※	国際化に向けた英語セッションは重要だが、発表議論レベルが犠牲になっては学術集会として意味が無いと思う。質疑応答の「日本語も可」は良い取り組みだと思うが、日本語セッション自体を充実させてほしい。自分にとって異分野のセッションに対しては、英語だとさらに理解ができなくなる。
※	卓越研究員事業についてのランチョンセミナーについて。制度の趣旨について文科省の方から直接話を聞いたのは良かった。ただ、学会側パネリストの人は選ばれがちなものか。〇〇〇、〇〇〇両先生は制度についてよく理解していたし重要な問題提起をしていたと思うが、他のお二方は明らかに勉強不足だったのでは？本事業にすら興味のない人がキャリアパス委員会にいるという事実は若手研究者を暗澹たる気持ちにさせる。事業の直接的対象者である任期付きポスドク等をパネリストとして登壇させるべきだったと思うし、そうした人の本音をくみ上げる努力を委員会には期待したい。
※	初参加ですが、大きな学会でした。聞きたい発表が自分の発表と重なっていたために、あまり勉強することができませんでした。プログラムを構成するのは大変なので仕方のないことですが、ただ聞きに行くほうが勉強になるのかもしれない、と感じました。もしくは、勉強や議論をする場ではなく、最近のトレンドを知るための場ととらえ、濃いディスカッションは小さな学会で、と分けたほうがよいのかもしれませんが。
※	フォーラムが夕方から夜の遅い時間帯になっていたが、お昼の時間に時間を持て余している人が沢山いたので、この時間帯にランチョン形式(スポンサーがなければ、有料でも良いと思う)で行った方が、人も沢山来てくれて良いと思った。
※	以前あったjazzセッションやアート展示も継続して行われるとよい。神戸、横浜以外にも福岡、札幌などでも時には開催されると良い。ポスターセッション時のアナウンスメントを手短かに、またできたら音量を下げて欲しい。折角演者のトークを聴いているのが聞こえない。
※	神戸はスクリーンが小さい会場が多いので、毎年横浜開催を希望
※	二日目に英語のセッションが集中しすぎていた気がする。午後に1セッションしか聞けず、物足りない。ポスター会場でのビールの配布はいい。経費の無駄である。あの会場に、ビールをもらうための列の存在が邪魔であり、そもそも場にそぐわない。また、アルコールを飲まない人への配慮にも欠ける。
※	年会の活気を感じました。このままこのアクティビティが継続されることを願います。
※	シンポジウムのテーマで、動向がわかるので、発表がなくても参加している。並行して開催されているシンポジウムは1つしか聞けないわけで、同じような内容が重なっていると聞けない。ときどきマンネリ化したなと感じることがあるが、今年は、多角的なテーマで構成されており、面白かった。一つをじっくり聞くことができた。
※	年々学術発表と参加者の全体的な質が落ちているような気がする。学生・大学院生の参加基準を厳しくし、学会の質を保つのも一案かと思う。
※	特になし
※	とても楽しく参加できました。ありがとうございました。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催を希望します
※	今年はワークショップがなく、見たい発表が被ることが少なかったのがよかったが、一般からの口頭発表採択はもっとあった方がよいと思った。シンポジウムの一般採択も実質内部で決まるような印象を受けたし、そこでなされる議論も、内輪感がぬぐえないところもあった。(シンポジウムのテーマがやや狭すぎるところもあったのが原因?)例年の採択数までは無くてよいので、ワークショップの復活、というか、もっと広く自由に議論できる場があればよいなと思った。
※	日本発のHigh ImpactなJournalを作る活動を行なって欲しい。
※	ポスター会場でのミキサーに関して、アルコールは反対です。企業がスポンサーとなったコーヒーやソフトドリンクそしてスナックのサービスの導入はいいかですか？分子生物学会には伝統的に懇親会はありませんが、企業がスポンサーとなったレセプションを導入し、アルコール他をふるまうのはいいかでしょうか？

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	入会受け付けしてくれた方がお酒臭くてあせった
※	若い人に限定したセミナーやシンポジウムがあれば良い。いつも同じような人が発表しているので、つまらない。プレゼンが全般的に下手で、スライドも見づらいので、ガイドラインを設けてほしい。文字は少なくとも24pt以上とか、下手な人は座長が途中で止めても良い、とか。
※	基礎研究の楽しさを純粋に再認識でき、また口頭発表・ポスター発表ではたくさんの方が自分の研究に興味を持ってくださることを実感できモチベーションも上げることができとても有意義な時間でした。ありがとうございました。
※	最近、会場が横浜・神戸に固定してしまっているの、是非別の場所での開催をお願いします。
※	分生は捏造問題を諦めたのか？そう感じざるをえません
※	分子生物学会年会はいろいろな分野の話が聞けて面白いです。聴衆があふれてしまって、立ち見でも聞けない講演が見られたので、落ち着いて講演が聞けるようにしてほしいです。(別室で中継など)
※	託児施設を子供二人預けたのですが、一日2000円/人ぐらだとポスター時間までゆっくり預けられた気がします。一時間400円2人で800円で5時間預けたら4000円で、5時間だと9時から2時しか預ける感じで、ポスター時間までだとだいたい9時間で一人5400円、3日でかなりの額になってしまい、特に若い研究者の家計にひびくような気がします。託児施設があるだけでも助かるのですが、、、これから女性研究者が増えるとしたら、子連れで学会に参加する負担を少しでも取り除いてもらえたらと思います。
※	今年はオールシンポジウムで良かったと思う。厳選されたシンポジストたちによる発表を腰を据えてしっかり聞いて大変勉強になった。例年、ワークショップや一般口頭発表などがあるが、これらは場合によっては付け焼き刃の構成であったり、発表時間が短すぎる中に多くのことを話過ぎてむしろわかりにくい形式になっていたと思う。学生のための口頭発表の場として位置づけるのであれば、会期を例年通り1日伸ばして4日間にし、最終日1日のみを一般口頭発表に当てても良いかと思う。今回は3日間で密度が濃いシンポジウムでその点は大変良かった。
※	ITシステムのSNS機能搭載や優秀ポスター賞等、若手研究者にとって便利、かつ、チャンスの広がる会だったと思います。
※	二泊三日がよかった。
※	分子生物学的な解析手法は、色々な所で活用されており、あえて他学会との合同会を開催する必要はないのでは？
※	ビール無料配布を今後も検討して欲しい。ランチョンセミナーが長引いて、午後のセッションの開始に影響が出そうだったので、検討して欲しい。
※	シンポジウムの会場に入れなところがあると思えば、ガラガラのところもある。もっと人の出入りを考えるべきだと思う。複数のシンポジウムが聞きたいときがある。各会場で進行の遅れがないようにし、また、各シンポジウムの発表時間を揃え、発表間で席を立てるような工夫がほしい。
※	この規模の学会で3日間は短い。会期を短くテーマを多くするとどうしても専門分野の人間だけで固まる傾向になり、大きな学会であるメリットを活かしくなる。
※	規模が大きい分、旧知に出会う機会も多いし発表・展示も多いので、有意義な面はあるものの、会場が広すぎて移動に時間を要したり、各講演会場が溢れかえって肝心の講演を聴けないというデメリットがあり、見直しても良い時期に入っているのではないかと思います。
※	年回参加費・年会費が高い。年会費を払っている会員に対しては、年回参加費を安くすべき。
※	関東地方で開催するのは、横浜(南関東)だけに限らない方がよいと思う。千葉、埼玉、茨城からの交通の便が悪いので、東京や埼玉での開催も考えてほしい。関西地方での開催も、大阪、京都などでの開催もあってよいと思います。
※	夜まで食い込まない方が良くと思う。疲れるので。
※	1. ○○○先生のお話が直に聞けて本当に良かったです。2. 総会と聞きたいランチョンセミナーが重なり、ランチョンセミナーが聞けなかったのが残念でした。有り難う御座いました。
※	人気のあるセッションでは座席が足りず、大勢の人が立って聞いていたので、そういったセッションでは大きな部屋で実施すべきと思いました。
※	3日目に行われた○○○先生のキャリアパスランチョンセミナーは、非常に熱い話を聞くことができ良かったです。もっと多くの方々に聞いていただきたいセミナーでした。
※	コンベンションセンターの女性用品の1つが正確な場所を正確に伝えることができなかったので、私は初日のポスターセッションを見逃しました。私はなぜ会長に依頼しているのですか、すべてのものを教えてください。再度、感謝します。
※	日程の都合もあると思いますが、同じ時間に平行して開催されるシンポジウムの数が多すぎると感じた。もう少し同時開催のシンポジウムの数が減れば、普段聞けない分野の話聞くチャンスが増えると思う。
※	ランチョンの抽選は全員が少なくとも1つは当たるようにした方が良いでしょう。3つ当たる人も居れば1つも駄目な人も居るといいうのは、フェアでないと思います。今回人気のあった立ち見の多いセッションは次回は大きな部屋にして欲しいです。前に人が座るとスライドが見にくくなるので、何か良い方法があれば良いのにとと思います。
※	よかったです。
※	シンポジウムがつまらなかった。もう少しチャレンジングな企画もあっては良いのではないかとこの学会にもいそうな先生のレクチャーはお腹いっぱいです。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	何か新しい事をしようとする全体方針は評価するが、今年のミキサーしかり、顔写真やSNSしかり、何年か前のジャズバンドしかり、ほんの一部の人間の内輪ノリを押し付けている感じが空回っていて、見ててひたすら寒い。例えば、SNSを導入してまで交流を後押しするのに中途半端な座長制を敷いて邪魔したり、顔写真掲載を推奨させているのに演者を確実にその場に居させる時間(よくある奇数・偶数番号で時間を区切る方法など)を採用しなかったりと、やっている事が地に足が着いてない。ポスター賞を参加者全員がアプリ上から公平に匿名で投票出来る様にすれば、発表者は自分が何人に評価されたか知る事ができ、参加者は他人の発表を緊張感を持って吟味する事に繋がる。本来SNSはその様に使われるべき物であり、結局お偉方の先生が決める古い体質とは相性が悪い。
※	分子生物学会の規模になると仕方がないのですが、どうしてもシンポジウム会場が狭いため、入口から覗いて会場がいっぱいだとみると、すぐにあきらめて参加者が散って行かれる感を受けました。
※	長すぎず、昼休憩も十分で、良かったと思います。
※	シンポジウムのオーガナイザーが毎回かなり重複している。一般演題を増やしたほうが学会自体は盛り上がると思う。
※	かなり大きな学会で準備等を担当されている組織委員の方が大変だと思います。組織委員の方のおかげで、研究の発表や発展ができていますので、感謝致します。
※	午後、立ち見が多かったり、聴衆があふれている会場があったので、立ち見解消のため、立ち見が多かったシンポジウムはどれか、チェックして、次年度に活かすことが出来ればよいと思います。とくに「本当におもしろい生き物の分子生物学」「ゲノム編集応用の最前線」はあふれかえっていて、来年やるならもっと大きい部屋を割り当てて検討したほうがよさそうでした。逆に午前のシンポジウムでは大きな部屋でかなり席が余っている会場もありました。2年前類似のテーマのシンポジウムも同じ部屋で、やはり席は余り気味でした。単純に時間帯の関係かもしれませんが、伝統的に大部屋を割り当てているが聴衆が減っているテーマがあるのではないかと思います。自分が興味のある分野なので寂しいですが、一方でどこかで立ち見が起きているなら大きい部屋を譲った方がよいと思いました。やりにくいとは思いますが、ご検討いただければ幸いです。
※	ポスター会場でのビール提供は、もう少し考えて企画して欲しい。中止しても良い。ビールを求める人が長蛇の列を作りポスター発表の邪魔になった。飲酒しながらポスター討論の座長をしている人がいた。モラルの問題でもあるが、提供時間を遅い時間に設定する、提供場所をポスターのパネルから離すなど、運営側の工夫をお願いしたい。
※	3日間の日程では、参加するには少々辛い。元のように4日間に戻してほしい。
※	今回の時間割はとても良かったと思います。
※	ポスター会場の暖房が強すぎる。
※	終了が6時では翌日に疲れが残らず良かったです。
※	ポスターが素敵でした。家族にも好評でした。
※	お疲れさまでありました。感謝しております。
※	ポスター会場の入り口の外でフォーラムのちらし(案内状)を配っていたところ、警備員に規制された。学会関係のちらしを会場の外で配ることは一般に行われている。たとえば、京都国際会議場で開催された生化学会では、地下鉄の出口から会場入り口までの通路でランチョンセミナーのちらしを配る光景はよく見られる。神戸国際会議場でもそうである。営利目的でないのに何が問題なのか？特にフォーラムは発表抄録が掲載されないの、ちらしで知らせるしか方法がない。今回、一部の人にはちらしを配布できたので、それを見て来場してくれた結果、前回のフォーラムより聴衆は多かった。警備員に中断されなければもっと多くの聴衆が見込めたと思われる。主催者はこの責任をどのようにとってくれるのか？
※	自分のポスター発表と時間が重なっているポスターを見るができなかったので、交代制だとよかった。
※	成育疾患(〇〇〇先生、〇〇〇先生)のセッションに参加させていただきました。プログラムが素晴らしく、前後の演題内容が少しずつオーバーラップしながら、bed寄りの話題からbenchよりのさらに深い内容に進行していくといった洗練された構成のセッションであった感心しています。また「成育疾患」のコンセプトも素晴らしいと思います。今後、さらに深刻化する超高齢者社会を迎えるにあたり、胎内にいるときから加齢を見据えて疾患を捉えていく姿勢は、予防医学の未来像であるagingに対する先制医療そのものであると感じています。
※	座る場所をもう少し増やして欲しい。以前よりも増えているが、スケジュールや抄録のチェックには、wifiが十分入って座ってできるところが欲しい。講演会場ではwifiが廊下でないと使用できないので、廊下に座るところを増やして欲しい。現在の座るところは大体占拠されている(ちょっと検索、という感じでなく、腰を据えてそこで仕事をしている人が多い印象)。
※	ポスターセッションですでに酒が入っているのはいかがなものか？
※	3日の開催はよかったですね。経費的にも、3日開催なら初日と3日目に出席したいセッションがあってもなんとかありますし。
※	今回は3日間の日程だったが、ちょうどよい開催期間だったと思う。ポスター会場が一つだったので、移動がしやすく、非常に良かったと思う。